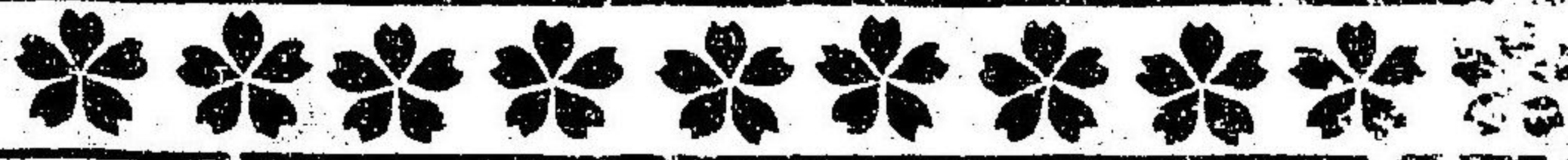
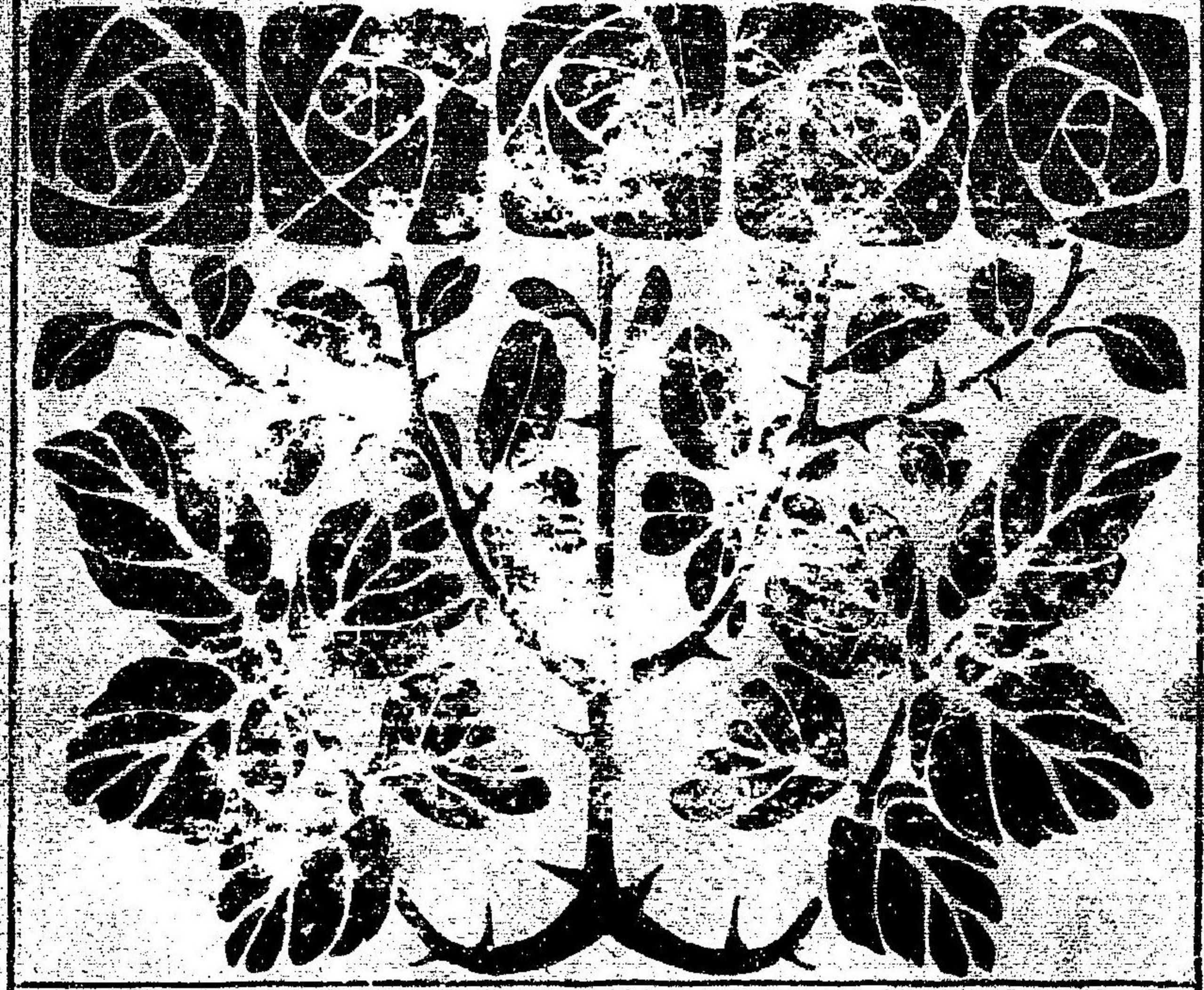


181
296

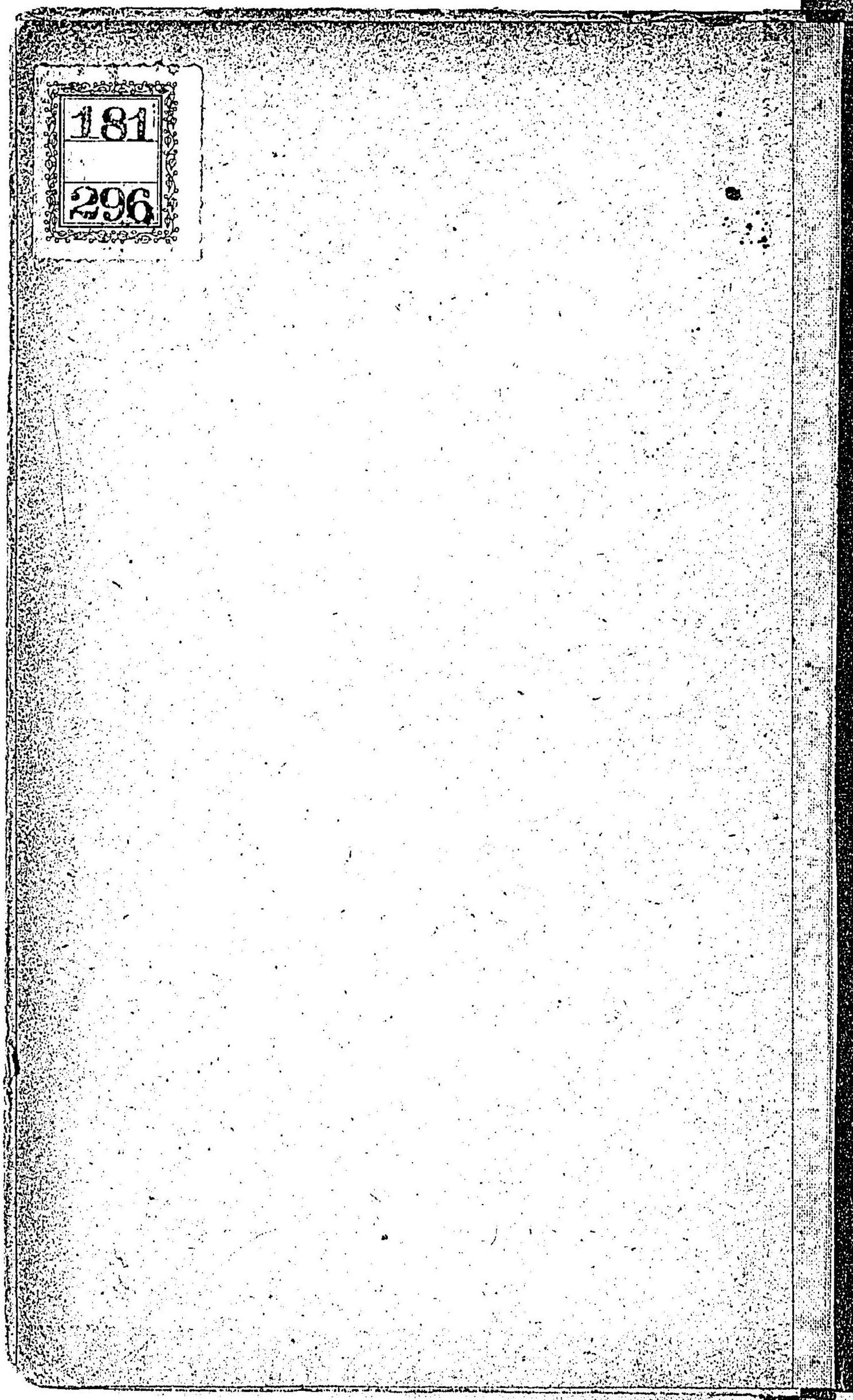


OUTLINES
OF
ENGLISH GRAMMAR

PART I.

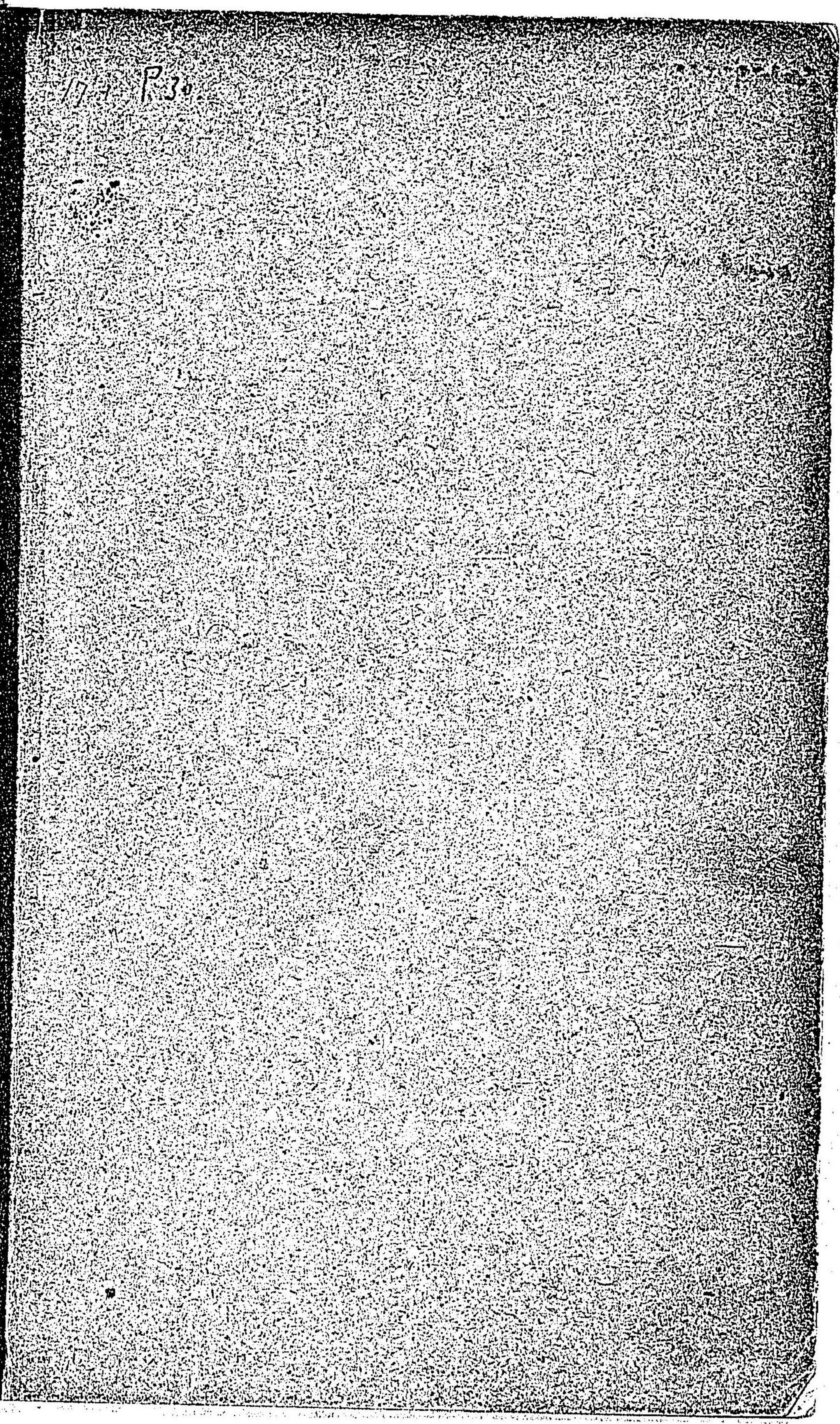


DAINIHON-TOSHO-KABUSHIKI-KWAISHA



181

296

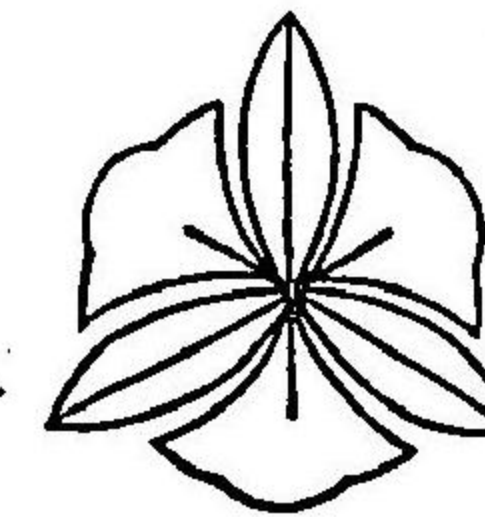


173 P3

OUTLINES OF
ENGLISH GRAMMAR

BY

OKAKURA-YOSHISABURO



44.10.11

PART ONE

TOKYO

DAINHON-TOSHO-KABUSHIKI-KWAISHA

—
1911

は し が き

本書は、中等程度の諸學校に於ける英文法教科書として編纂せるものにして、初學者をして英文典の概要を知らしむるを目的とす。

英文を解し、英文を綴るに當り、最も必要なるは、文章の構造、語句の順序など構文の大本に關せる知識なり、故に、本書に於ては、先づ筆を文章論に起し、之を経として整々説を立つると同時に、之が緯としては主要なる品詞論上の事項の記述も亦之を怠ることなく、斯くして兩々相並び進んで本書を終る比には、一わたり文章論、品詞論の大意を説明し結了するやう、十分工夫鹽梅せり。

説明は、凡て歸納的に之を施し、各章先づ例文を掲げ之に基づきて敘述を爲し、敢て抽象的に且つ難解の語句を列ぬることをせず。

本書の各章は、成るべく思想上の聯絡を主として之を配列し、易より難に入り序を逐うて必要なる事項を説明せんことを努め、必ずしも從來因襲の順序を踏用せず。

説明には平易なる邦文を用ゐ、術語も亦邦語を主として、原名を割註す、是れ覚えにくき原名に暇取らんよりも、

寧ろ早く文典の實質内容を學ばしめんと欲すればなり。

必要なる通則を大字にて印刷し、例外其他の印刷には細字を用ゐ一目輕重を知らしめ、教授の都合によりては、大字の部分のみを授くるも可なる様に仕組めり。

各章の初めに掲げたる例文より、練習問題に至るまで成るべく思想上の連絡ある材料を選び、互に孤立せるものは成るべく之を避けたり。

本書に於ては、本文の説明を簡潔にし、隨所に設問と稱する一項を置けり、これ、生徒は之に由りて自ら其力を試みるを得べく、教師は之に基きて問答式教授を施すの便あり、互に活動の餘地を得べければなり。

章の終りには復習表を設け、既得の概念を系統的に總合するに便にす。

打出表を插みたるは、諸種の形式を表示し、其相互の關係を一目瞭然たらしめ、讀書作文の際、容易に参照するの便あらしめんが爲めなり。

練習題は成る可く變化に富ましめ、I. II. III 等諸種の種類を掲げたり。これ、時間の都合上其幾分を省くにも I. II. III. 等の別ある方、便なるべきを思へばなり。

練習には填字、作文、繪畫應用等を設けたれども、誤文訂正は有害と認め之を削除せり。

卷末に精細なる索引を附し、書中の事項は固より語句の用法に至るまで、一々節 (paragraph) を擧げ、恰も一種の文法辭典の如く、讀者をして立ちどころに、其欲する所を求むるに便にえ、且つ此爲めに、各頁の欄外に節の數を記し置けり。此索引を利用する時は、教授の都合に由り、篇章の順序を變更し、又は或る箇處を拔萃して教授するなど、教授者の立案自在なるべし。

各章繪畫を插みたるは、從來乾燥無味なりし文法の教授に幾分の興味を添へん心しらひなり。

本文典第二部は、主として更に進みたる品詞論上の事項を述べ、本書を終へて後、第二部に移るも可なるべく、或は本書と並行して之を用ゐ、機に應じて参照せしむるも亦可なり。

編 者 識

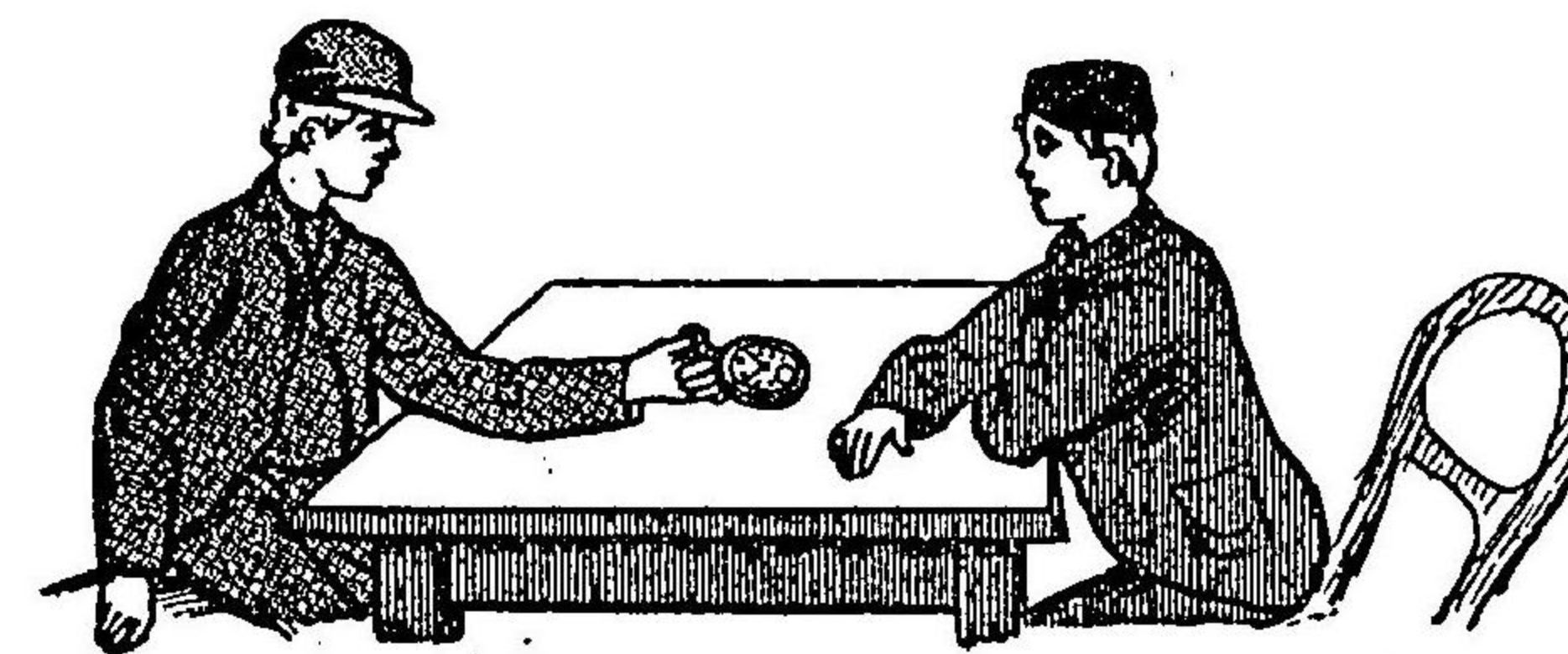
CONTENTS.

CHAPTER	PAGE
I. Words and Sentences	1
II. Subjects and Predicates.	6
III. Nouns. Numbers.....	11
IV. Objects	17
V. Personal Pronouns.	22
VI. Cases of Nouns.....	30
VII. Adjectives and Articles	36
VIII. Complements.....	43
IX. Degrees of Comparison	50
X. Adverbs.....	60
XI. Verbs of Giving, Telling, etc.	64
XII. Classes of Verbs	69
XIII. Phrases. Analysis of Sentences.....	73
XIV. Finite Verbs	84
XV. Tenses	94
XVI. Progressive Forms	102
XVII. Negative Sentences	108
XVIII. Interrogative Sentences	113
XIX. Interrogative Pronouns and Adverbs	120
XX. Exclamatory Sentences	126
XXI. Imperative Sentences	130
XXII. Compound Sentences	136
XXIII. Complex Sentences	142
XXIV. Complex Sentences (continued)	148
XXV. Conjunctions	153
XXVI. Relative Pronouns and Adverbs	157
Index	167

OUTLINES OF ENGLISH GRAMMAR

PART I.

I. WORDS AND SENTENCES.



Look at this watch.

Is it your watch?

Yes, it is mine.

Where did you buy it?

I did not buy it. My uncle gave it to me.

What a good uncle you have!

(1) Look, at, this, watch. の如く. きれ
ぎれの意味を表す詞を. 語又は單語
[Word] と云ふ。

(注意) look と云ふ語を取りて之を検すれば、其 l, o, k 等の記號より成れるを見る。之を文字又は字 [Letter] と云ふ。文字に L, I, Y の如き頭字 [Capital Letter] と l, i, y の如き小字 [Small Letter] とあり。

(2) My uncle gave it to me. の如く、語集りて、一の纏まれる意味を示す者は、之を文章又は文 [Sentence] と云ふ。此文は My uncle が何をなししかを敘述するものにして、凡て文章は、或る題目に就きて、何事かを叙ぶるものを云ふなり。

(注意) 文章の最初の語は、頭字を以て之を始むべし。

(3) I did not buy it. My uncle gave it to me. の如き文章は、單に事柄を敘述するものなれば、之を叙述文 [Assertive Sentence] と云ふ。

(注意) [1] 敘述文には肯定と否定とあり。My uncle gave it to me. の如きは肯定文 [Affirmative Sentence] にして、I did not buy it の如きは否定文 [Negative Sentence] なり。

(注意) [2] 敘述文の終りには、(.) 即ち句點 [Period] を置く。

(設問) 章の初に掲げたる例文中に猶、肯定文ありや。

(4) Is it your watch? の如く問を發する文章を、疑問文 [Interrogative Sentence] と云ふ。

(注意) 疑問文の終りには、(?) 即ち疑問點 [Interrogation mark] を置く。

(設問) 例文中の疑問文を指摘せよ。

(5) What a good uncle you have! の如く感嘆を表す文章を、感嘆文 [Exclamative Sentence] と云ふ。

(注意) 感嘆文の終りには、(!) 即ち感嘆點 [Exclamation mark] を附す。

(6) Look at this watch. の如く命令を敍ぶる文章を、**命令文 [Imperative Sentence]** と云ふ。

(注意) 命令文の終りには Period を置く。

(7) 文章には上述の如く、四種の別あれども、其中にて敍述文は凡ての基礎となるものなれば、之に由りて先づ文章の組織を學ぶを便とす。依りて以下數章の間は、専ら敍述文に就きて、諸種の法則を述ぶべし。

復 習 表

文章	}	1. 敍 述 文
		2. 疑 問 文
		3. 感 嘆 文
		4. 命 令 文

EXERCISE.

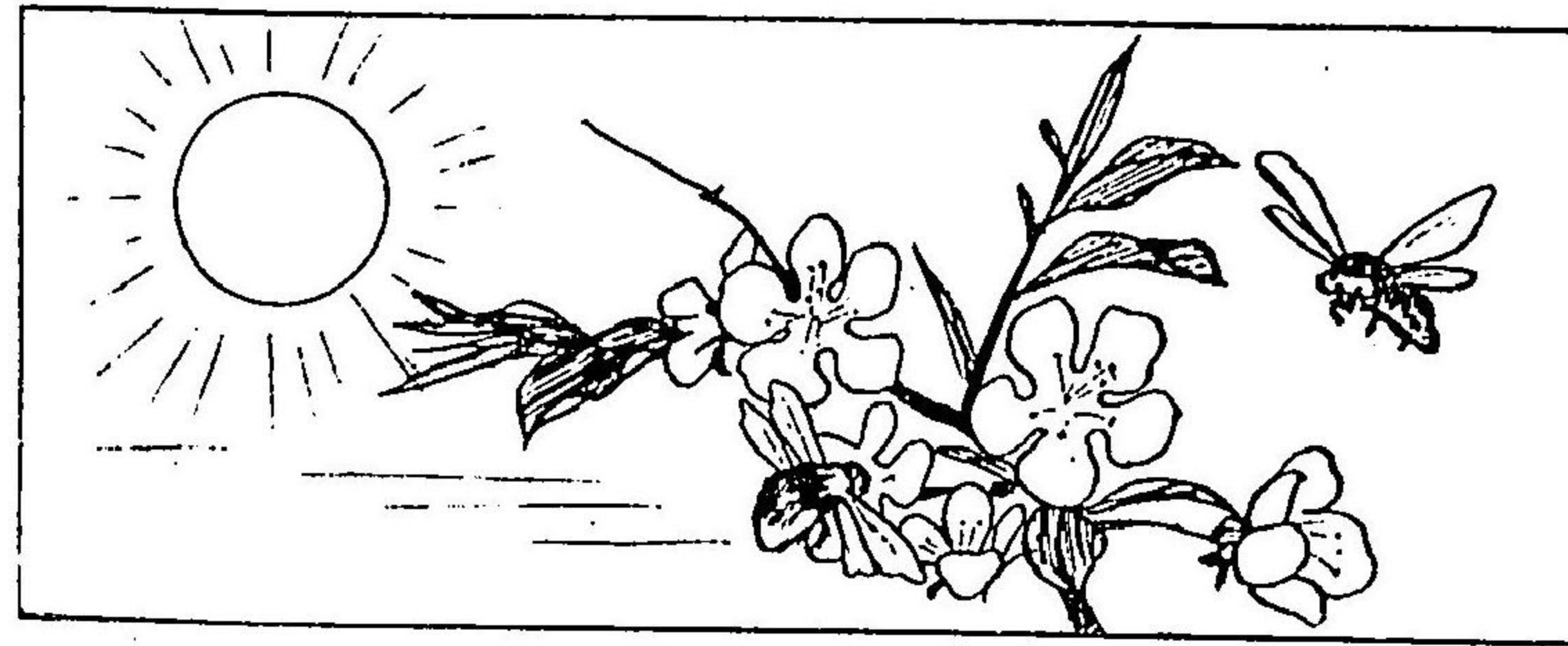
I. 次に掲ぐるものは Word なりや、將た Sentence なりや、語ならば之を補ひて文とせよ。

1. Mary has.
2. The bird is in a cage.
3. It is tame.
4. in the cage.

II. 次の文章の種類を一々區別し、且つ之に適當なる標點 [Mark] を附すべし。

1. Once the mice were in great trouble ?
2. There was a cat in the house.
3. This cat would eat all the mice
4. What a cruel cat she was ?
5. Look at the cat.
6. What a large bell she has on her neck ?
7. Who put the bell on her neck ?
8. Did you.

II. SUBJECTS AND PREDICATES.



Spring has come.

Warm winds blow.

The sun shines in the blue sky.

Flowers bloom.

Bees hum.

They are flying from flower to flower.

(8) Bees hum.

The sun shines in the blue sky.

以上の敘述文を見るに、一は Bees
といふ題目を取り、之に就きて hum

すと云ふ事柄を述べ、一は the sun に
就き敘述をなせるものなり。完全な
る文章は、必ず説話の題目となる語
と、之に就きて敘述する語とを備へ
ざるべからず。此二部分なき時は、語
いかに多く集れりとも意味纏まら
ざるなり。

(9) Bees, the sun の如く、説話の主題
となれる部分を **主部 [Subject]** と云ひ、
hum, shines in the blue sky の如く、主部に
就きて敘述する部分を **敘述部 [Predi-
cate]** と云ふ。

The sun の中、sun の如く、主部の中
心となれる主要なる語を **主語 [Sub-
ject Word]** と云ふ。

(注意) [1] Bees は主部にして、且主語なり。

(注意) [2] 主部.主語を特に區別する必要なき時は.いづれをも單に Subject と稱すると多し.

(10) いかに長き文章も(命令文を除き).皆之を主部.敘述部の二部に分つを得.

主 部		敘 述 部
Warm winds		blow.
They		are flying from flower to flower.

(設問) 其他の例文を.主部と敘述部とに分解せよ.

(11) 敘述文に於ける.主部と敘述部との排列の順序は.日本文に於けると同じく.主部を初めにし.次に敘述部を置くものとす.

(12) 主語となれる語を見るに. bees, sun の如きは事物の名稱を示す語なり.凡て人又は事物の名を示す語を

名詞 [Noun] と云ふ. 又 they の如きは名詞の代りに用ゐる語なれば.かゝる語を代名詞 [Pronoun] と云ふ.主語となる語は.多く名詞又は代名詞なり.

(13) 敘述部は Bees hum. の如く敘述語一個のみの事もあり. 又 The sun shines in the blue sky. の如く數語にて成るともあれど. 其中には常に hum, shines の如く. 事物の動作又は有様を表す語を有す. かく事物の動作又は有様を敘する語を動詞 [Verb] と云ふ. 而して hum, shines の如く敘述部の中心となれる動詞を敘述動詞 [Predicate Verb] と云ふ.

(注意) [1] 動詞は必ずしも一語にて成れるものに非ず. 數語集りて一まとまりの動詞をなすとあり. Spring has come. They are flying 等に於

てその然るを知るべし。[69 節参照]
 (注意) [2] 敘述動詞は又治定動詞とも稱す。
 [80 節]

復 習 表

文 { 主部.....主語(名詞,代名詞)
 敘述部.....敘述動詞

EXERCISE.

I. 次の文に就きて、先づ主部及び敘述部を指摘し、且つ主語、敘述動詞をも指摘せよ。

1. The sun rises.
2. The morning dawns.
3. Boys get up.
4. They go to school.

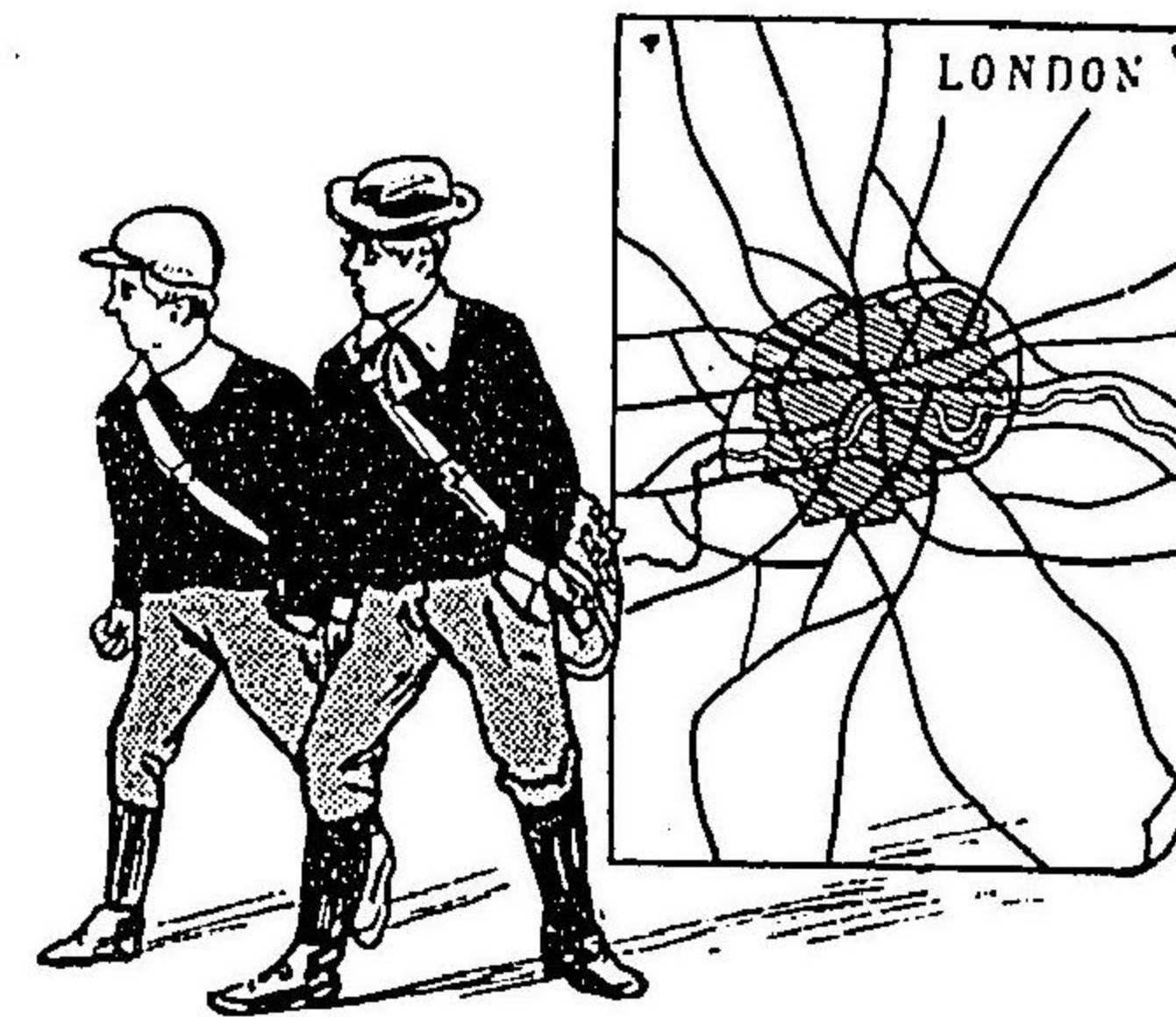
II. 空所に主部又は敘述部を充たして、完全なる文章とせよ。

1. — has a dog.
2. — is a useful animal.
3. John—.

III. 次の心を英語にて述べよ。

1. 今は春である。
2. 鳥が歌ふ。
3. 小兒等が野で遊ぶ。
4. 私は春が好きだ。

III. NOUNS. NUMBERS.



Frank is a pupil. John is a pupil.

They are pupils.

They go to the same school in London.

London is the capital of England.

(14) *Frank is a pupil.*

London is the capital of England.

の文の中にて. Frank, pupil, London, capital, England の如き語を名詞と稱するとは既に之を述べたり。(12節)

さて名詞の中にて Frank, London, England の如きは. 其人. 其市. 其國のみに用ゐ. 他の人. 市. 國には之を用ゐると能はず. かく或る特別なる人又は物に固有せる名詞を**固有名詞** [Proper Noun] と云ふ。

(注意) 固有名詞は頭字を以て書き始む。

(15) 之に反して. pupil, capital の如き名詞は. 同じ種類の人又は物には. 孰れにも通じて使用するを得. かくる名詞を**普通名詞** [Common Noun] と云ふ。

(注意) 次に掲ぐる名詞の中. 最初のもは普通名詞にして. 次にあるは固有名詞なり。

boy | Frank, John, Fred, Henry.

city | London, Paris, Berlin, Tokyo.

country | England, France, Germany, Japan.

hero | Nelson, Napoleon, Alexander the Great.

之に由りて. boy は Frank にも John にも用ゐられ. city は London にも Paris にも用ゐらるゝとを. 益々明かに解し得べし。

又 hero や city は多くあれども. Nelson や London は唯一つのみなる事を悟るべし。

(16) *Frank is a pupil. They are pupils.*

に於て. pupil は唯一人の生徒を表し. pupils は二人以上を表す. 唯一個人又は物を表す名詞を**單數** [Singular Number] の名詞と云ひ. 二個以上の人又は物を表す名詞を**複數** [Plural Number] の名詞と云ふ。

普通名詞には單數複數の區別を

存すれども、固有名詞は大概単数のみなり。

(設問) 何故固有名詞には複数なきか。

(注意) 単数の普通名詞には其前に a (an) 又は the を附するを常とす。[36 節参照]

(17) 単数の名詞を複数とするには。

[A] 単数名詞の語尾に s を加ふるを最も普通とす。

単数 cat cup book

複数 cats cups books

単数 pen name dog tree

複数 pens names dogs trees

(發音注意) 270 節参照

此規則を應用するに當り、綴字上注意すべき點は下の如し。

(a) s, ss, x, sh, ch (即ちサ行, シャ行, チャ行の音が語尾に来れる時) 及び o にて終れる名詞には es を附す。是れ語呂の上より, fishes, watches とは云ひ難きが爲なり。

ass box fish watch hero

asses boxes fishes watches heroes

glass fox dish bench potato

glasses foxes dishes benches potatoes

(b) y にて終り、其前に父音の字 [Consonant] ある時には y を去り、ies を附して複数を作る。

city lady story

cities ladies stories

對照 { ladies.....lady は y の前に父音
boys.....boy は y の前に母音

(c) f 又は fe に終れる語は、f を去り、ves を附して複数となす。

knife wolf thief

knives wolves thieves

[B] 又語の中の母音 [Vowels] を變じ、不規則に複数を作るものあり。

單数 man woman child mouse

複数 men women children mice

單数 goose foot tooth

複数 geese feet teeth

復習表

名詞	{	固有名詞	數	{	單數
		普通名詞			複數

EXERCISE.

I. 名詞を指示し、其固有名詞なりや、普通名詞なりやを述べ、且つ固有名詞なる時は、之を頭字に書き起すべし。

1. George is very fond of reading about napoleon.
2. Where was napoleon born?
3. He was born in a small island called corsica in the mediterranean.
4. The island belongs to france.

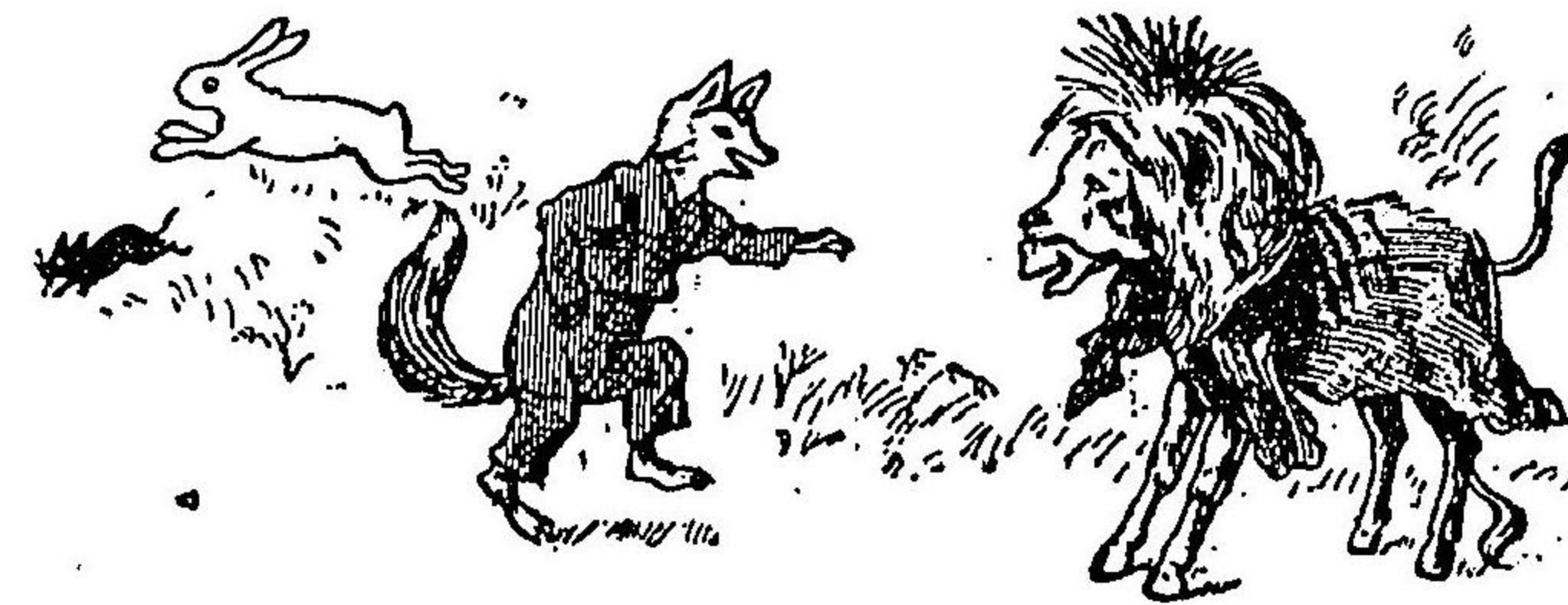
II. 下の文中にある普通名詞の數を變へよ。

1. I saw a child and a dog.
2. The child has a kite and two tops.
3. The cat was climbing a tree.

III. 下の繪に就きて短文を四つ作れ。



IV. OBJECTS.



An ass wore a lion's skin.

He frightened many smaller animals.

He met a fox.

But the fox did not fear him.

Because he heard the ass's voice.

Lions roar. Asses bray.

(18) Lions roar.

と云ふ文に於ては、動詞 roar は其儘にて意味明かなり。斯く其儘にて充分敘述を爲し得る動詞を自動詞 [Intransitive Verb] と云ふ。

(設問) 例文中に他にも自動詞ありや。

(19) He frightened many smaller animals.

に於ては、roar と趣を異にす。若し He frightened... と云へるのみにては、he は「何を」frighten せるか。其意味明かならず。frighten すと云ふ動作の歸着する事物。即ち many smaller animals と云ふ語を添へざれば、意味落ち着かざるなり。斯く動作の目的を示す部分無くしては、充分なる敘述を爲し得

ざる動詞を他動詞 [Transitive Verb] と云ふ。換言すれば他動詞とは、主語より他に及ぼす動作を表す動詞なり。

(20) 而して前文中の many smaller animals の如く、他動詞の示す動作の目的となりて、其意味の落ち着く事物を示す語を、其動詞の目的部 [Object] と云ふ。目的部の中、主要なる語、即ち many smaller animals 中の animals の如きものを、目的語 [Object Word] と稱す。

(注意) 細かき區別の必要なき時は、二者孰れをも Object と云ふとあり。

(21) 目的語は大概名詞又は代名詞なり。

(設問) 例文中に、代名詞にして目的語となるものありや。

(22) 他動詞を有する敘述文に於て

は. 語の順序. 下の如くなるを見るべし。

主 部	敘 述 部	
	敘 述 動 詞	目 的 部
He	frightened	many smaller animals

(備考) Object の位置に就いては. 英語は漢文に似たる所有り. 試に次の三文を比較せよ。

{ 余は 犬を 好む.
 { 余 好 犬.
 { I like dogs.

復 習 表

動 詞 { 自動詞
 { 他動詞.....目的部

EXERCISE.

I. 他動詞と其目的部及目的語を指示せよ。

1. I love James.
2. James loves me.
3. He likes picture post-cards very much.
4. He collects stamps too.
5. He has an album full of rare ones.

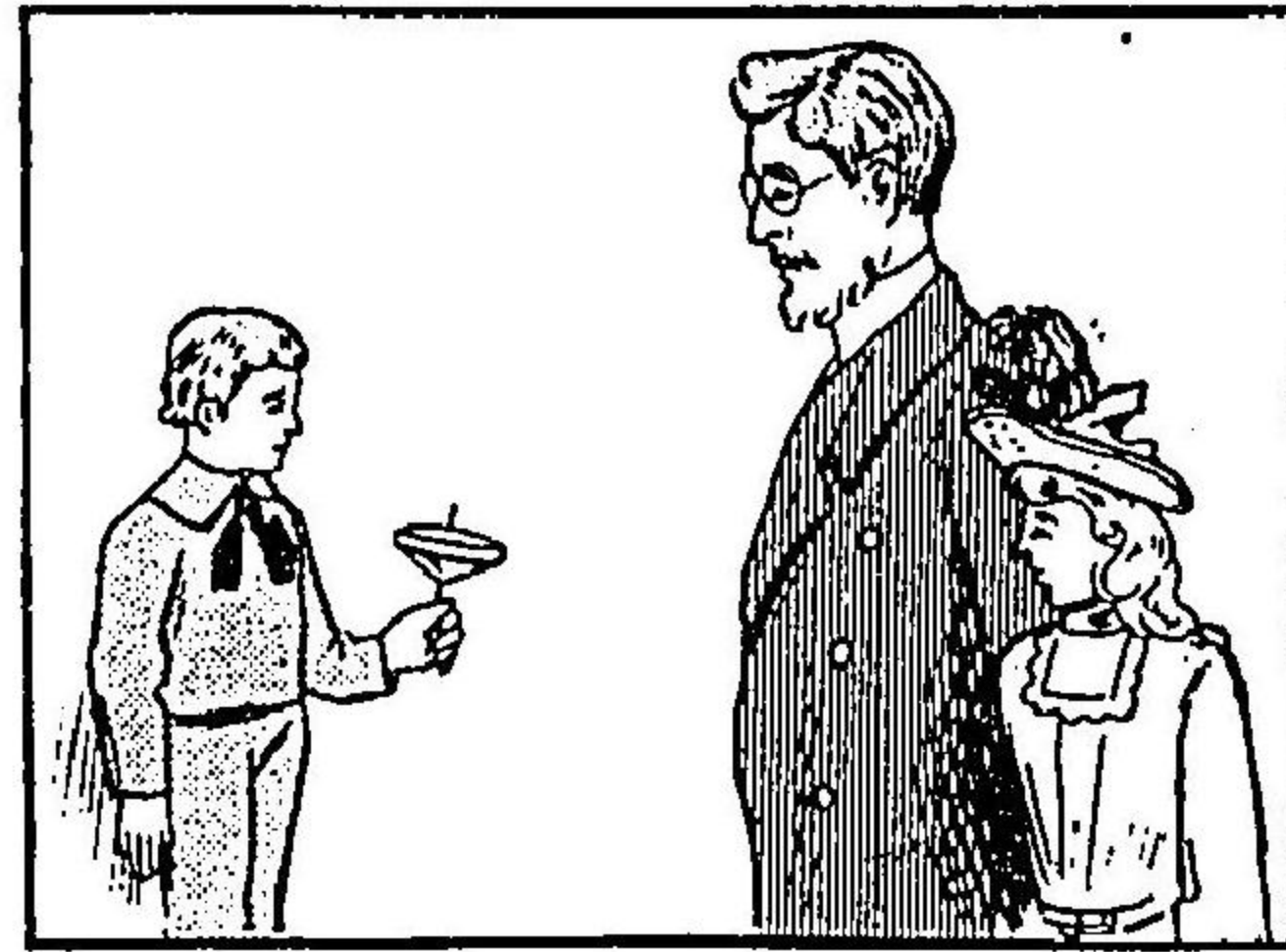
II. 空所に目的部を補ひ. 文意を完全にすべし。

1. I saw——
2. James had——
3. He likes——
4. His dog caught——
5. Mary made——for her brother.

III. 次の語を目的部として三個の文章を作れ。

two boys, apples, a bird.

V. PERSONAL PRONOUNS.



I have an uncle.

His name is Edward Baker.

I love him.

He has a daughter.

We often play together.

She gave me a top the other day.

I like it very much.

(23) *His* name is Charles Baker.

に於て. his は其上の文にある名詞
uncle の代りに用ゐるものなれば. 之

を代名詞と稱する事は. 既に之を述べたり。[12 節参照]

(24) I, we は話す「者」自身を表し. you は話しかくる先方の「者」を表し. he, she, it は話の種となる「者」を表す。

斯くの如き「者」の區別を**人稱 [Person]**と稱す. 而して I の如き自稱の語を**第一人稱 [First Person]**と云ひ. you の如き對稱の語を**第二人稱 [Second Person]**と云ひ. he, she, it の如き他稱の語を**第三人稱 [Third Person]**と云ふ。

人稱を盡く具備する代名詞を. **人稱代名詞 [Personal Pronoun]**と稱す。

(25) *He* has a daughter.

I love *him*.

His name is Edward Baker.

を見るに. he は文章の主語にして. him

は動詞 love の目的語なり。而して his は所有を表す。He の如きを **主格 [Nominative Case]** の代名詞と云ひ。him の如きを **目的格 [Objective Case]** の代名詞。his の如きを **所有格 [Possessive Case]** の代名詞と云ふ。代名詞が文章中の他の語に對して、かく形を變ずる活用を代名詞の **格 [Case]** と稱す。

(注意) 前置詞の次に目的格を用ゐる事に関しては、次章の 30 節を見よ。

(26) *He has a daughter.*

She gave me a top.

I like it very much.

を見るに、he は男性を表し、she は女性を表し、it は男女性孰れにもあらざる無生物を表す。此區別を代名詞

の **性 [Gender]** と云ひ。he を **男性 [Masculine Gender]**、she を **女性 [Feminine Gender]**、it を **中性又は無性 [Neuter Gender]** と云ふ。I, we, you, they の如きは男女性孰れにも用ゐらるゝを以て、**通性 [Common Gender]** と云ふ。

(27) 人稱代名詞は、人稱、數、格、性に從ひて、其形を變ずること次の如し。

人稱	格	數		
		主格	所有格	目的格
第一人稱		I	my	me
第二人稱		you	your	you
第三人稱	男性	he	his	him
	女性	she	her	her
	中性	it	its	it

人稱	數	複 數		
	格	主 格	所有格	目的格
第 一 人 稱		we	our	us
第 二 人 稱		you	your	you
第 三 人 稱		they	their	them

(注意) [1]. I は常に頭字にて記す。

(注意) [2]. 性の區別あるは第三人稱單數の場合のみなり。其他は通性なり。

(注意) [3]. 名詞にも代名詞の如く、人稱の別なきにあらざれども、通常は第三人稱にのみ用ゐらる。即ち

The boy has a knife.

He likes it very much.

His mother bought three pencils.

She gave them to him.

に於て見る如く、boy は he に當り、mother は she に、knife, pencils はそれぞれ it, they に當ることを悟るべし。

(注意) [4]. 英語の代名詞は日本語の其れより遙に單純なり。

對照 { I
余、私、己、それがし、僕、自分、わらは、拙者、手前。

(設問) 第二人稱、第三人稱は如何。

(28) 代名詞の功用は、名詞の重複を避くるにあり。作文又は談話の際、同一の名詞を一々繰り返す時は、其文冗長となり、不便一方ならず、然るに代名詞を用ゐる時は、文章簡潔となり、且文勢引きしまるの利あり。下の二文を比較對照すべし。

The girl had a bad pain in the girl's side, and could not eat the girl's food.

The girl's parents made up the parents' minds to send for the doctor, so that the doctor might cure the girl.

The girl had a pain in her side, and could not eat her food. Her parents made up their minds to send for the doctor, so that he might cure her.

(注意) 人稱代名詞中 it の使用法は最も廣く

且つ種々あり。158 節を参照し便宜之を學習すべし。

復習表

代名詞の變化 すべき要件	1. 人稱.....	第一人稱
		第二人稱
		第三人稱
	2. 數.....	單數
		複數
3. 格.....	主格	
	所有格	
	目的格	
4. 性.....	男性	
	女性	
	中性 通性	

EXERCISE.

I. 下の名詞の重複せる所に、それぞれ適當なる代名詞を宛てよ。

1. A boy is on a branch. *The boy* has climbed up the tree and is now picking the apples.
2. *The boy* drops *the apples* one by one to the girl below.
3. *The girl* holds out *the girl's* apron to catch the apples as *the apples* come down.

II. 次の文の中の人稱代名詞に就きて人稱、數、格、性を云へ。

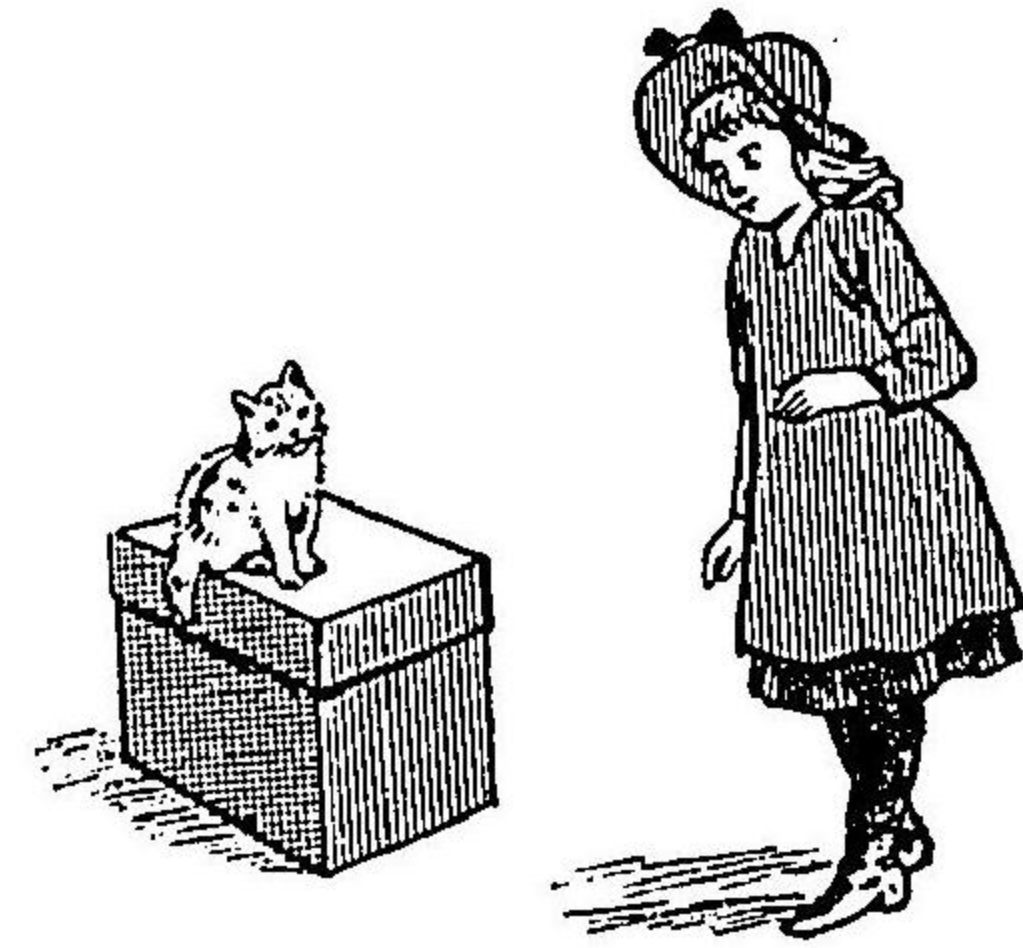
1. I am a bird.
2. My name is Robin Redbreast.
3. We make our nests in the bushes.
4. I have three young ones in my nest.
5. They are all pretty.

III. 次の文の心を英語にて述べよ。

1. 我等は學生である。
2. 諸君は若い時に勉強しなければならぬ。
3. あの子たちは始終怠けて居る。
4. 彼奴の大刀を奪うて見よう。
5. やいやい、なせに其方はそれがしの大刀に手を掛くるぞ。
6. いや、是れは拙者の大刀ぢや、こちへよこせ。

7. やいやい. 汝等は何事をわつわと言ふぞ.
先づ大刀をば某に預けい.
8. こなたは如何様な御方で御座るぞ.

VI. CASES OF NOUNS.



Ann's cat is sitting on a box.

Ann likes her cat.

The cat saw a rat.

She ran after it.

(29) 名詞にも代名詞の如く. 格の區別あり. 即ち

Ann likes her cat.

Ann's cat is sitting on a box.

の文を見るに. Ann は動詞 likes の主語にして. cat は likes の目的語なり. 而して Ann's は其所有主たる位置に立てり.

文章の主語となる名詞の格を**主格 [Nominative Case]**と云ひ. 動詞の目的語となる格を**目的格 [Objective Case]**と云ひ. 所有主たることを示す格を**所有格 [Possessive Case]**と云ふ. (25 節参照)

(30) *Ann's cat is sitting on a box.*

を見るに. on と云ふ語は名詞 box の前に置かれて. box が他の語に對する關係を表す. かく名詞(又は代名詞)の前に置いて. 他の語との關係を表

す語を前置詞 [Preposition] と云ふ。

前置詞の次にある名詞. 例へば on a box に於ける box の如きものを. 前置詞の目的語と稱し. 其格を目的格とす。

(31) 主格と目的格とは. 名詞に在りては. 其形の上に何等の變化なし. 唯文章中に於ける位置に. 一定の席次あるに由りて. 之を判別するを得るなり。

對 { Ann's cat is sitting on a box.
照 { Ann likes her cat.

(注意) [1]. 代名詞にては. 主格と目的格とは其形を變ずると前章に述べたる如し. 下の二文を對照すべし。

{ John went there with Mary. { I like John.
{ He went there with her. { I like him.

(注意) [2]. 又上例によりて with her の her は

前置詞 with の目的語なれば. 目的格を用ゐる事を悟るべし. [25 節注意参照]

(備考) 前置詞に就き更に明瞭なる觀念を得んが爲めには. 第二部第十三章をも併せ學習すべし。

(32) 名詞の所有格を作るには. 語尾に省略點 [Apostrophe] と s (即ち 's) を附す. 但し既に s を以て終れる複數には. 單に省略點 (') のみを附すべし。

a cat's neck		cats' necks
a horse's tail		horses' tails

(注意) [1] men's legs. (men' legs に非ず)

(注意) [2] 單數形に於て. 既に s を以て終れる名詞 James, Dickens の如きを. James's, Dickens's の如くする場合には. 此 's を iz と發音す。

(33) 所有格は人間其他動物に用ゐる. 無生物には用ゐず. 後者には 's に代へて of を用ゐるを常とす。

Ann's cat		the roof of the house
a cat's neck		the leaves of the tree

(the house's roof, the tree's leaves と云はず)。

(注意) 但し時 [time] を表す名詞は例外とす。

yesterday's lesson

to-day's paper

five minutes' walk

(34) 所有格の前に of を置くもあり。
a friend of my uncle's の如し。是れ uncle の
有する友多き中の一人を指すなり。

He is a friend of my uncle's (=one of my
uncle's friends).

The law of gravitation is a discovery of Sir
Isaac Newton's.

(注意) That face of my father's は my father's face
の意を強めたるものなり。此場合には、this 又
は that の用ゐらるゝに注意すべし。

復 習 表

名詞の格 { 主格
 { 所有格 's
 { 目的格

EXERCISE.

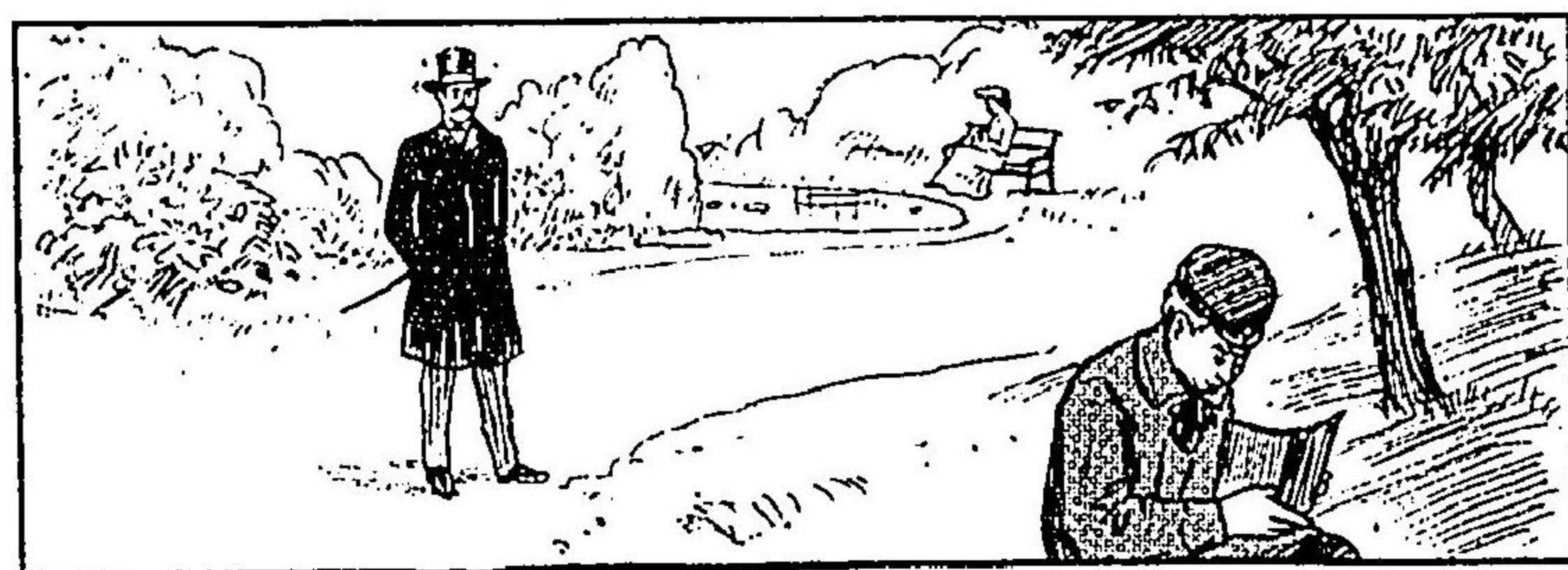
I. 次の文章中にある名詞の格を云へ。

1. This watch is James's.
2. His father bought the watch for James.
3. James always carries his watch in his pocket.

II. 次の心を英語にて述べよ。

1. 此處から學校までは五分位で行けます。
2. 學校の屋根が見えるでせう。
3. 今朝學校のそばでお兄さんの友達に遇ひ
ました。
4. 其友達は「昨日の書取は大層むづかしか
つた」と云ひました。

VII. ADJECTIVES AND ARTICLES.



Boys like books.

Studious boys like good books.

All studious boys like good books.

I saw a boy.

The boy had a book.

He was reading an English reader.

(35) Boys like books.

Studious boys like *good* books.

以上の文を比較するに. *studious*, *good* はそれぞれ名詞 *boys*, *books* を修

飾し. 其いかなる *boys* なるか. いかなる *books* なるかを一層確實になす. かく名詞を修飾する語を**形容詞** [Adjective] と稱す.

(注意) [1] 單に *Boys like books.* とのみあれば. 一般に漠然と云へるものにして. 意味頗る廣く. 如何なる *boys* をも指せども. 之に形容詞を附して *Studious boys* と云へば. *studious* ならざる *boys* には之を用ゐる能はず. 唯 *studious* なる者にのみ限らる. 之に由りて名詞の意義は一層確實となるなり.

(注意) [2] 前掲の例文に由りて. 形容詞は主語となれる名詞にも. 目的語となれる名詞にも添ふ事を悟るべし.

(36) I saw *a* boy. *The* boy had a book.

に於て. *a* boy は. 「或る一人の boy」と云ふ意味を表し. *the* boy は「前述の其 boy」といふ意味を表す. *a*, *the* 共に名

詞に冠して其意味を修飾するものにして、之を冠詞 [Article] と云ふ。冠詞は形容詞の一種なり。

(37) 而して **a** は漠然と或る一箇の事物に之を用ゐるを以て、之を不定冠詞 [Indefinite Article] と稱し、**the** は確にそれと定まれる時に用ゐるものなれば、之を定冠詞 [Definite Article] と稱す。

(38) The boy had *a* book.

He was reading *an* English reader.

にて見る如く、不定冠詞は、母音を以て始まる語の前に在りては、其形 **an** となる。

即ち **a** は父音 [Consonant Sound] を以て始まる語の前に用ゐられ、**an** は母

音 [Vowel Sound] を以て始まる語の前に用ゐらる。

A pear	An apple
A hen	An egg
A desk	An inkstand
A horse	An ox
A nephew	An uncle
A minute	An hour
A young man	An old man

(注意) (1) hour の如きは、父字 [consonant letter] にて始まれども、**h** は黙字 [silent] にて、次に來る音は母音なれば **an** を用ゐる。unit の如きは母字 [Vowel letter] にて始まれども、其實父音の發音なれば、**a** を用ゐて **a unit** と云ふ。

(注意) (2) **a**, **an** は大概 **ə**, **ən** と發音せらる。**the** は通常父音を以て始まる語の前にありては **ði** と發音せられ、母音にて始まる語の前にては **ði** と發音せらる。

(備考) **ə** は我が「あたま」(頭)の「あ」音の如くして、而も極めて輕き曖昧なる母音を表す、**ð** は this の **th** の音なり。

(39) 不定冠詞 *a, an* は、元來 *one* の轉訛にして、「或る」「一つ」の意を含み、單數普通名詞が、未だ定まらざる人又は物を表す時、其前に置く。尤も邦語にて「或る」「一の」など云はざる場合にも之を附するものとす。

He was reading *an* English reader.

You have *a* pretty watch.

Mary has *a* bird. She put it in *a* cage.

(40) 定冠詞 *the* は、*that* の轉訛にして、「その」「この」「あの」「例の」と云ふ意味を含み、其次に来る名詞が一定特殊のものたることを表す。尤も邦語にては特に之を「その」「この」等云はざる場合にても、若し話す人の心の裡にて、特に或る定まれるものを指す時には、*the* を用ゐるものとす。

I saw *a* boy. *The* boy had *a* book.

You have *a* pretty watch. Is it yours?

Yes, it is mine. My uncle gave me *the* watch, and *the* chain is from my aunt.

Mary has *a* bird. She put it in *a* cage. *The* bird sings in *the* cage.

復 習 表

形容詞

冠詞 ... { 不定冠詞..... { ⁿ
an
定冠詞 the

EXERCISE.

I. 次の文に就きて形容詞を指摘せよ。

1. Lucy has a new doll.

2. Her good mamma gave it to her.

3. It is a very pretty doll.
4. She will get her a nice hat.

II. 次の空所に a 又は an を補ふべし。

1. There is — bird on that tree.
2. Is it — young bird?
3. No, it is — old bird.
4. Do you see — egg in its nest?
5. Yes, I see — very white egg.

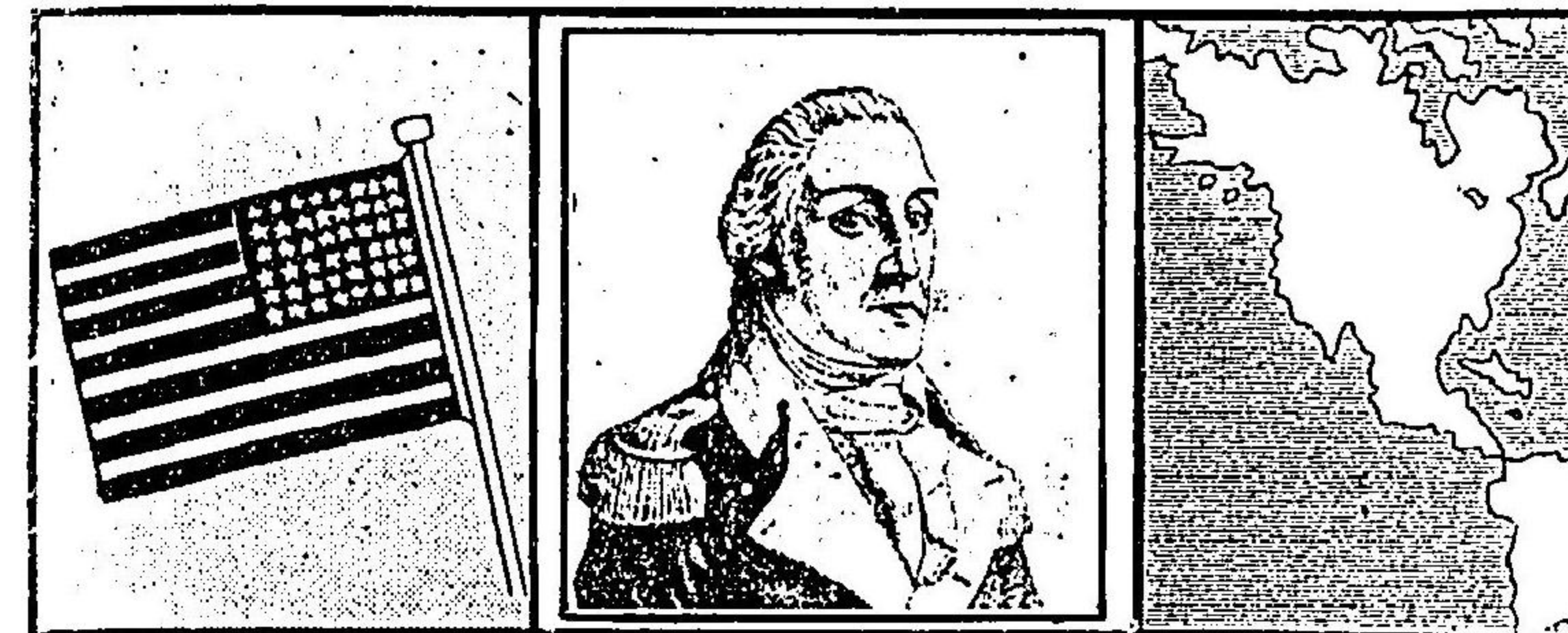
III. 必要なる箇所に冠詞を挿入すべし。

1. What has your sister? She has bird.
2. Where is bird? It is in cage.
3. Bird sings every day.
4. Where does it sing? It sings in cage.
5. Is cage big? No, it is not big cage.

IV. 次の心を英語にて述べよ。

1. 君は厚い本をお持ちですね。字書ですか。
2. はい。英和字書です。
3. 誰に其辭書をお貰ひでしたか。
4. これは伯父さんから貰つたお土産です。

VII. COMPLEMENTS.



George Washington was a good boy.

He was honest. He never told a lie.

He became a great man.

The American people elected him President.

He made his country wealthy and powerful.

(41) Washington *was* a good boy.

に於て。動詞 *was* は其動作を他に及ぼすものに非ざれば。他動詞にあらずして。自動詞なり。然れども單に Washington *was* とのみ云ひては。Washing-

ton が何者なるか意義明かならず。a good boy と云ふ語を補ひて、心始めて通ず。此種の自動詞を**不全自動詞** [Incomplete Intransitive Verb] と云ふ。

之に反して Lions roar. に於ける roar の如き自動詞は、其儘にて意義完全なり。依りて此種の自動詞を**完全自動詞** [Complete Intransitive Verb] と云ふ。

(注意) 時としては Intransitive Verb of Incomplete Predication, Intransitive Verb of Complete Predication と云ふ名稱も亦用ゐらることあり。

(42) 而して上例に於ける a good boy の如く、不全自動詞に添ひて、其敘述を補ふ部分を、其不全自動詞の**補足部** [Complement] と云ひ、補足部中の主要なる語、例へば a good boy 中の boy の如きを、**補足語** [Complement Word] と云ふ。

(注意) 二者混同の虞無き時は、共に之を Complement と稱することあり。

(設問) 例文中より不全自動詞及び其補足部を挙げよ。

(43) 補足語となる語は、主として名詞(代名詞)又は形容詞なり。

名詞 Washington was a good boy.

形容詞 He was honest.

(44) 不全自動詞を有する文章に在りては、文中の諸語の位置次の如し。

主 部	敘 述 部	
	不全自動詞	補 足 部
He	became	a great man

(45) 前節の表に由りて明なる如く、不全自動詞の補足部は、其位置恰も他動詞の目的部と同一なるを以て、二者を混同せざるやう深く注意せ

ざるべからず。下の二文を対照して充分二者相違の點を心得べし。

主	他	目
He	collects	stamps.

(a) collects は他動詞にて、其働きは stamps に及ぶ。

(b) 主語 he と目的語 stamps とは別物なり。

(c) stamps の格は目的格なり。

(d) 目的語は、邦語を充つれば、「……を」となる。

主	不全自	補
He	is	a boy.

(a) is は自働詞にして状態を表す、boy に働きを及ぼすとなし。

(b) 主語 he と補足語 boy は同一人なり、即ち boy は he を説明する語なり。

(c) boy は he と同一の立場に在る語なれば、he と同じく主格なり。

(d) 補足語は、邦語を充つれば、場合に由りて「…で」「…と」又は「…に」となる。

(46) 他動詞の中にも亦、完全なる者と不全なるものとあり。例へば

He collects stamps.

に在りては、collects と云ふ他動詞は、目的語 stamps を得て、其意義直ちに明なるが故に、collects は**完全他動詞** [Complete Transitive Verb] なり。然るに。

The American people elected him *President*.
に在りては、elected と云ふ他動詞は、既に目的語 him を有しながら、唯 The American people elected him……のみにては、其言はんと欲する意義を充分に表すに能はず、President と云ふ補足語を補ひて、心始めて通ず。故に此場合の elected は**不全他動詞** [Incomplete Transitive Verb] なり。

(注意) 時としては Transitive Verb of Complete Predication, Transitive Verb of Incomplete Predication と云ふ名稱を用ゐる事あり。

(設問) 例文中に猶他に不全他動詞ありや。

(47) 他動詞の補足語も亦、多くは名詞(代名詞)又は形容詞なり。

(設問) 例文中より形容詞が他動詞の補足部となれる文を指摘せよ。

(48) 不全他動詞を有する文に於ては、語の順序は下の如し。

主 部	敘 述 部		
	不全他動詞	目的部	補足部
The American people	elected	him	President

(49) 不全自動詞の補足部と不全他動詞の補足部とを比較するに、前者は主部と同一の事物、又は主部の状態を表し、後者は目的部と同一の事物、又は目的部の状態を表す。

Washington was a good *boy*.

They elected *him* *President*.

故に *boy* の如きを主格の補足語 [Subjective Complement] と云ひ、*President* の如きを目的格の補足語 [Objective Complement] と云ふ、而して *boy* は主格にして、*President* は目的格なり。

復 習 表

自 動 詞	完全
	不全.....補足部
他 動 詞	完全.....目的部
	不全.....目的部.....補足部

補足部.....名詞又は形容詞

EXERCISE.

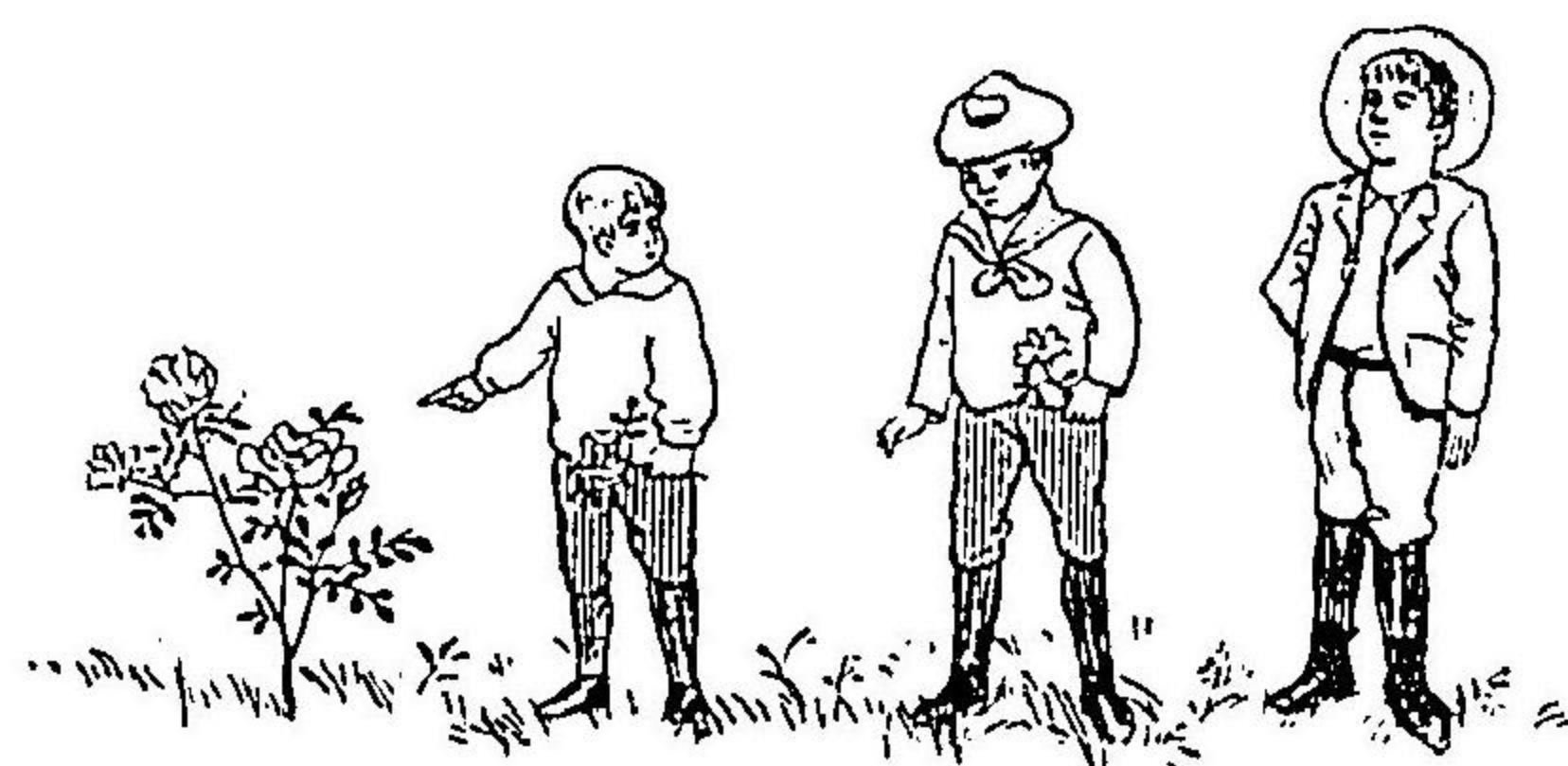
I. 次の文の中にて不全動詞(自他とも)及び補足部を指摘せよ。

1. London is a city.
2. It is the capital of England.
3. We are Englishmen.
4. England is a part of Europe.
5. We often call Japan the England of the East.

II. 空所に補足部を補へ。

1. I am —.
2. Jack is —.
3. He will become —.
4. They made him —.
5. We named him —.

IX. DEGREES OF COMPARISON.



Jack is five years old.

He is rather tall for his age.

George is taller than he.

But Henry is the tallest of the three.

What has George?

He has a beautiful rose.

Jack's rose is more beautiful.

But those in the garden are the most beautiful of all.

(50) He has a *beautiful* rose.

He is *tall* for his age.

等に於て. beautiful, tall の如きを形容詞と稱する事は既に之を述べたり。[35節]。而して beautiful は直接に. 名詞 rose に付き. 其意味を修飾し. tall は不全自動詞 is の補足語となりて. 敘述部の一部をなせり。

(51) 之に由りて. 形容詞には二種の用法あるを知るべし。

(A) 直接に名詞(體言)に付き. 其意味を形容修飾するもの. 之を連體的用法 [Attributive Use] と云ふ。

a beautiful rose; studious boys.

(A) 不全動詞の補足部として. 敘述部の一部となり. 間接に主語又は目的語を形容修飾するもの. 之を**敘述的用法 [Predicative Use]**と云ふ.

He is *tall* for his age.

He was *honest*.

He made his country *wealthy* and *powerful*.

(對照) { He is a *good* boy.
He is *good*.

(注意) [1] 邦語にては「あの人は怠惰だ」「彼は病氣なり」の如く. 名詞の形に「だ」「である」「なり」を附して用ゐれども. 英語にてはかゝる場合には形容詞を用ゐる事に注意すべし.

He is *sick*. (誤.—sickness)

He is *idle*. (誤.—idleness)

(注意) (2) 形容詞は時としては. 不全自動詞の補足語となり. 更に次に來る前置詞と合して. 恰も他動詞の如き意味をなすことあり.

The girl is *fond* of cats. (She *likes* cats.)

The boy is *afraid* of dogs. (He *fears* dogs.)

(52) He is *tall* for his age.

George is *taller* than he.

But Henry is the *tallest* of the three.

の文に於ては. tall, taller, tallest はそれぞれ身長に就き. 比較を示せるものなり. 斯く. 形容詞の表す性質. 有様或は數量等を比較することを稱して. 形容詞の**比較 [Comparison]**と稱す.

(1) 而して tall の如く. 單に其有様. 性質等を其儘表すを**原級 [Positive Degree]**の形容詞と云ひ.

(2) taller の如く. 二つの性質を比較するを**比較級 [Comparative Degree]**と云ひ.

(3) tallest の如く. 三つ以上のものを比較し. 其中最上の度合を表す

ものを**最上級** [Superlative Degree] と云ふ。

(53) 一音節 [one syllable] の語全部、及び二音節 [two syllables] の語の幾部分は、原級の形容詞の語尾に **-er** を加へて、比較級を作り、**-est** を附して最上級を作る。

原級	比較級	最上級
tall	taller	tallest
short	shorter	shortest
rich	richer	richest
poor	poorer	poorest
warm	warmer	warmest
cold	colder	coldest

(注意) 以下綴方の變化に注意す可し。

{	large	larger	largest	(語尾に黙音 eある時)
	fine	finer	finest	

{	big	bigger	biggest	(語尾に父字一個あり 其前に短母音ある 時。(對照) thick, thicker, thickest)
	hot	hotter	hottest	
{	happy	happier	happiest	(語尾yの前に 父字ある時。 (對照) gay, gayer, gayest)
	easy	easier	easiest	
	heavy	heavier	heaviest	

(54) 二音節の語の大半及び三音節以上の語には、其前に **more** を附して比較級を作り、**most** を附して最上級を作る。

原級	比較級	最上級
beautiful	more beautiful	most beautiful
difficult	more difficult	most difficult
interesting	more interesting	most interesting

(55) 次の形容詞は、比較の方式極めて不規則なり。

原級	比較級	最上級
good	better	best
well		

bad	}	worse	worst
ill			
evil			
many	}	more	most
much			
little		less	least
old	{	older	oldest
		elder	eldest
late	{	later	latest
		latter	last
near		nearer	nearest
far		farther	farthest
[forth]		further	furthest

(注意) [1] **well** は形容詞としては、健康の意に用ゐる。常に補足語としてのみ用ゐらる。例へば I am quite well. の如し。

(注意) [2] **bad**.....He is a *bad* boy.

ill.....That girl is *ill*.

evil.....An *evil* deed never prospers.

little.....「かあいい」「年の少い」

small (smaller, smallest).....「形の少い」

(注意) [3] **older, oldest** は年長の意に用ゐる。**elder, eldest** は長幼の順序に用ゐる。

My *elder* brother is *older* than your *eldest* sister.

He is the *oldest* of us all.

(注意) [4] **late, later** は時を表し。**latter, last** は位置を表す。**latter** は *former* に對して用ゐるを常とす。

This is the *latest* news.

He is the *last* boy in the class.

I met George and Fred; *the former* is an American and *the latter* is an Englishman.

(注意) [5] **nearest** は距離又は場所に用ゐる。**next** は順序又は位置に用ゐる。

He took refuge in the *nearest* hut.

The *next* thing he did was to buy a pistol.

(注意) [6] **farther, farthest** は距離を表し。**further** は「其上の」「尙進んでの」と云ふ意を表す。**furthest** は用ゐること稀なり。

They walked a little way *farther* down the main street.

There are no *further* particulars.

(56) 最上級の形容詞は大概其前に the を置く。

Henry is *the* tallest of the three.

(57) 比較級は、もし後に of the two の如き句ある時は、其前に the を附す。

Which is taller, George or Henry?

Henry is taller than George.

Henry is *the* taller of *the two*.

復 習 表

	形容詞の用法	{	連體的
		{	敘述的
			(I.) (II.)
比較	原級
	比較級	—er.....more—
	最上級	—est.....most—

EXERCISE.

I. 下の文に就き形容詞を指摘し、且つ其用法を述べよ。

1. I have no pretty clothes like Cockrobin, or Polly, the parrot. But I do not mind.
2. I am quite content to be a plain little sparrow.
3. Do not think I am not happy.
4. I will tell you some of the good things I have.
5. I have a snug, warm nest.

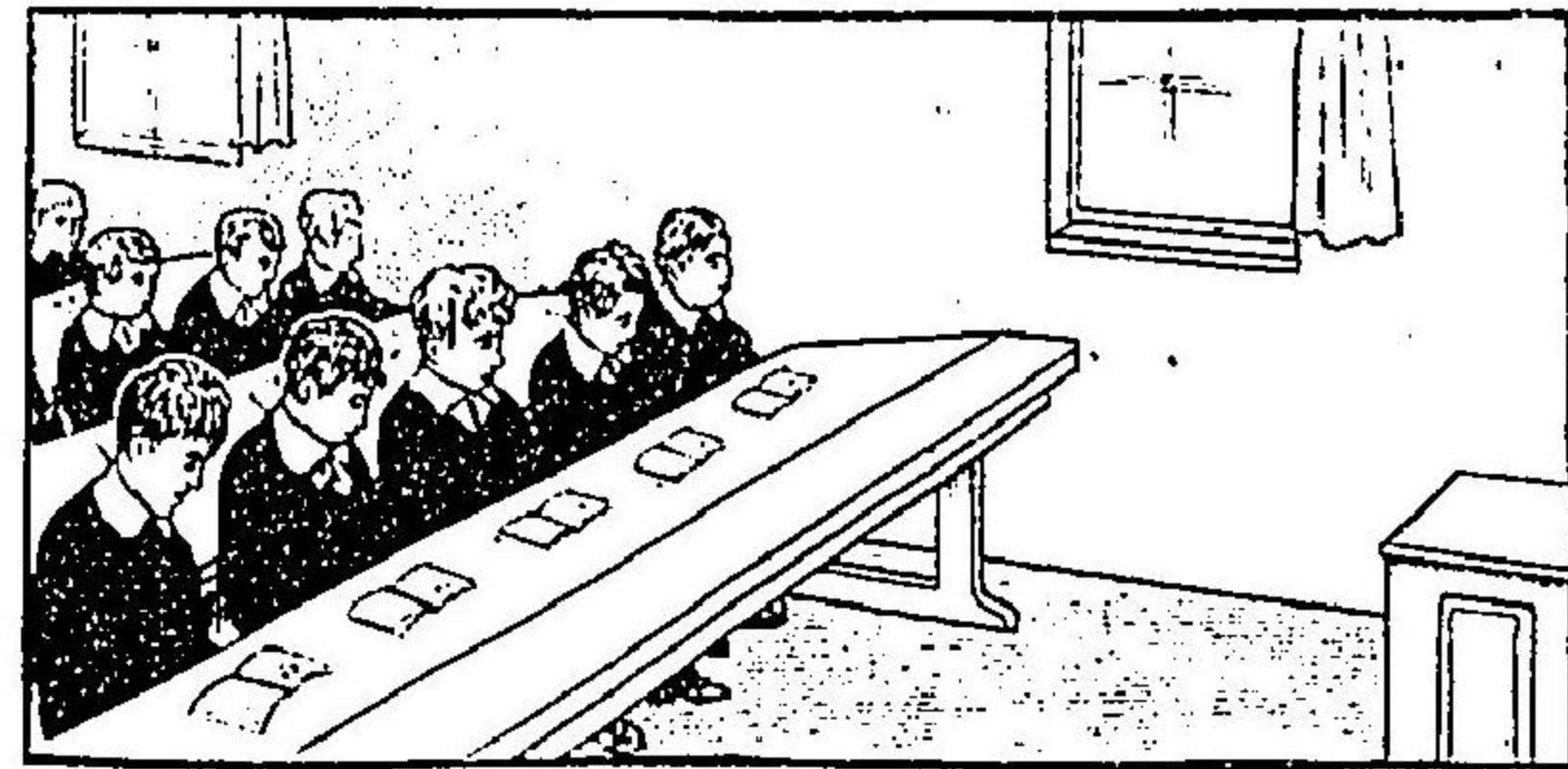
II. 次の邦文の心を英語にて述べよ。

1. 富士山は高い山だ。
2. 新高山は富士山よりも高い。
3. 日本で一番長い川は信濃川である。
4. 世界で一番強い國は何處ですか。
5. 日本は世界で一番強いと思ひます。

III. 次の形容詞の比較級及び最上級を用ゐて短文を作るべし。

1. big
2. little
3. good
4. beautiful
5. heavy

X. ADVERBS.



The pupils attend the school regularly.

They work very hard. 校規

They always keep quiet in the class room.

They are very studious boys.

(58) The pupils attend the school *regularly*.

を見るに、regularly は動詞 attend を修飾し、生徒が學校に attend する有様を表す。かく動詞に副へて之を修飾する語を副詞 [Adverb] と云ふ。

副詞は又、形容詞、或は他の副詞をも修飾するとあり。例へば

They are *very* studious boys.

に於て、very と云ふ副詞は形容詞 studious を修飾し。

They work *very* hard.

に於て、very は他の副詞 hard を修飾するが如き是なり。

(59) 副詞の中には、形容詞に -ly を附して之を作るもの多し。

形容詞	副詞	形容詞	副詞 (緩注意)
soft	softly	gentle	gently
safe	safely	noble	nobly
careful	carefully	easy	easily
regular	regularly	happy	happily

對比 { Its fur is soft. He touched it softly.
They were safe. They went on safely.

(注意) 一語にして二様の副詞形を有する者あり。

{ hard.....(烈しく)	{ late.....(晚く)
{ hardly...(殆ど.....せぬ)	{ lately...(近頃)

(60) 副詞にも比較あり。其方法は形容詞の場合に同じ。(53. 54. 55 節等を参照すべし)。

Henry gets up very *early*.

But his father gets up *earlier* than Henry.

He usually gets up *earliest* of us all.

原級	比較級	最上級
early	earlier	earliest
fast	faster	fastest
badly	worse	worst
far	farther	farthest
carefully	more carefully	most carefully

(61) 副詞が動詞を修飾する時は、之を文の終りに置くと多し。

主 部	敘 述 部		
	動	目	副 詞
The pupils	attend	their school	regularly.

但し副詞が形容詞、又は他の副詞を修飾する時は、通常之を其前に置く。

(62) 時としては、數語相集りて一の副詞同様に用ゐらるゝとあり。例へば

They always keep quiet *in the class room*.

の *in the class room* の如きは、其動詞 keep に係る關係は、一の副詞と異ならず、かくの如き語の集合體を副詞句 [Adverbial Phrase] と云ふ。

(注意) 句の事は更に 70 節に委し。

復 習 表

副 詞	{	動、形、副を修飾す
		形.+ly
		比較
		副詞の位置.....文の終
		副詞句

EXERCISE.

I. 次の文の中にある副詞を指摘し、且つ其何を修飾せるかを述べよ。

1. William has a very big dog.
2. He likes it very much.
3. He always plays with it.
4. It can run faster than William.

II. 次の副詞を用ゐて短文を作れ。
fast; very; merrily; always; never

XI. VERBS OF GIVING, TELLING, ETC.



Ned is rolling a hoop.
His aunt gave it to him.

He likes it very much.

He showed me the hoop last Saturday.

He will lend it to his brother.

(63) His aunt gave it to him.

を見るに、gave は他動詞にして其目的語として it を有す。而して to him は、it を「誰に」與へしかを表すものにして、動詞 gave に係る一種の副詞句なり。かく give の如く「誰に」と云ふとを表す語を要する他動詞は、give の外に猶 show, send, bring, lend, tell, teach 等あり。

(注意) 時としては、to him の如く、「に」の格を示す副詞句を、他動詞の間接目的語 [Indirect Object] (又は Dative) と云ひ、之に對し it の如き「を」の格を示す通常の目的語を直接目的語 [Direct Object] (又は Accusative) と稱することあり。前者は主として「物」を表し、後者は多く「人」を表す。

(備考) 本文典に於ては, to him を一種の副詞句 [Adverbial Phrase] と見なし, give の如き種類の動詞を, 一種の完全他動詞として取扱ふ。

(64) 斯かる「誰に」を表す語の位置は, 副詞と同じく目的語の次に在りて, 通常名詞又は代名詞に to を附したるものなり。例。

His aunt gave it to him.

然れども往々此 to を略すことあり, 其場合には, 却つて之を目的語の前に置くこと下の如し。

He showed me the hoop last Saturday.

(65) 之に由りて give の如き動詞には, 二種の構造あるを見るべし。

(a)	主 部	敘 述 部		
		動	目	副
	His aunt	gave	the hoop	to him.

b)	主 部	動	副	目
	His aunt	gave	him	the hoop.

(注意) [1] 而して (a) は其構造全く完全他動詞の場合と同様なり, 下の二文を比較して其然るを見べし。

	主 部	動	目	副
	The pupils	attend	the school	regularly.
	His aunt	gave	the hoop	to him.

(注意) [2] 目的語が, 代名詞なる時は, (b) の構造を許さず。

He gave it to him.

[He gave him it. とは云はず]

尤も時として He gave it him. と云ふ形は無しとせざれども, そは to him の to を略したる亂雑の用法と見なして可なり。

EXERCISE.

I. 次の文に於て、目的語の位置を變せよ。もし變じ得ざる時は其理由を述べよ。

1. I gave a knife to my cousin.
2. Mamma gave me a book.
3. I showed it to him.
4. I told him a very interesting story.
5. Roy will send a post card to my brother.

II. 次の文の心を英語にて述べよ。

1. 伯母さんが私に本を下さいました。
2. 私はそれを弟に見せてやりました。
3. 弟は其話を John に話すでせう。
4. John は私に昨日繪はがき帖を送つて呉れました。
5. 私は直ぐ John に手紙を出しました。

XII. CLASSES OF VERBS.

主 部	叙 述 部		
	動 詞	目的部	補 足 部
S	V
S	V	C
S	V	O
S	V	O	C

(66) 動詞を、文章構造の上より考ふるに、先づ目的部の有無に由りて自他の區別を生じ、補足部の有無に由りて完全、不全の別を生ず、故に動詞には都合四種の別有るを見る。

(a) 完全自動詞。動詞のみにて意義の足れるもの。[41 節]

主 部	叙 述 部
Bees	hum.

(b) **不全自動詞**。主格の補足部を要するもの。[41 節]

主 部	敘 述 部	
	動 詞	補 足 部
Washington	was	a good boy.

(注意) 之に屬するものには be, became 等を主とし、其他時としては look, appear, taste, feel, grow, get 等あり。

(c) **完全他動詞**。目的部を要するもの。[46 節]

主 部	敘 述 部	
	動 詞	目 的 部
He	frightened	many smaller animals.

(d) **不全他動詞**。目的部及目的格の補足部を要するもの [46 節]

主 部	敘 述 部		
	動 詞	目 的 部	補 足 部
The American people	elected	him	President.

(注意) make, keep, leave, find, call, name, elect, appoint, think 等は之に屬することあり。

(67) 同一の動詞が、其意味により、或は自動詞となり、或は他動詞となる事あり。注意すべし。

自 動 詞	他 動 詞
We shall <i>stop</i> here.	We shall <i>stop</i> him.
The snow <i>melts</i> in the sun.	The sun <i>melts</i> the snow.
The ship <i>sank</i> at last.	The enemy <i>sank</i> the ship.

(68) 又同一の動詞が、時によりて或は完全動詞となり、或は不全動詞となる事あり。

完 全	不 全
The stars <i>appeared</i> .	He <i>appeared</i> pleased.
He <i>made</i> a box.	He <i>made</i> her happy.

EXERCISE.

I. 次の文章中にある動詞の種類を述べ、其目的部、補足部あるものは之をも指摘せよ。

1. It is Sunday.
2. The sun is bright.
3. I will take my breakfast at once.
4. I will visit Tom.
5. Tom lives near us.
6. He has a good dog.
7. He calls his dog Rover.
8. Tom likes him very much.

II. (1.) appear 及び grow を不全自動詞として用ゐ、短文を作れ。

(2.) name, make を不全他動詞として用ゐ、短文を作れ。

(3.) make を完全他動詞として用ゐ、短文を作れ。

文章の解剖

(第一打出表)

文章の 部分 動詞 の種類	主 部		敘 述 部			
	主-修	主 語	動 詞	目 的 部	補 足 部	動-修
I. 完 全 自 動 詞	Some	Winter boys	has come. are skaking	/	/	on the pond.
II. 不 全 自 動 詞	They	are	/	strong and active boys.
III. 完 全 他 動 詞	The poor	birds We	can find give	enough food crumbs of bread	/	not. them.
IV. 不 全 他 動 詞	The	frost	has made	the ground	very hard.

厚 肉 にて印刷せる語は文章の主要成分を示す

XIII. PHRASES. ANALYSIS OF SENTENCES.

Winter has come. It is very cold.

The pond is frozen.

Some boys are skating on the pond.

They are strong and active boys.

The frost has made the ground very hard.

The poor birds cannot find enough food.

We will give them crumbs of bread.

To help others is the way to make ourselves
happy.

(69) Winter has come.

に於て. 敘述動詞は唯一語にあらずして. has と come との二語より成れり. [13 節注意 (1)]. かゝる場合に於て. come の如く. 主要の意義を表すものを. **本動詞 [Principal Verb]** と云ひ. has の如く本動詞の意義を補助するものを **助動詞 [Auxiliary Verb]** と云ふ.

(注意) [1] 然れども二者合して一の敘述動詞を成すものなれば. 文の解剖 [71 節参照] の時は. 之を一個の如く見なす.

(注意) [2] 助動詞には此外猶次の如きものあり. [委しくは 204 節以下を参照すべし].

Do you speak English?

I can not speak English.

English is spoken everywhere.

You must learn it.

I will (or shall) learn it.

Now you may go.

(設問) 例文中より助動詞を指摘せよ.

(70) *To help others is the way to make ourselves happy.*

を見るに *to help others* と云ふ語の集りは. 恰も一の名詞の如くに用ゐられて. 文の主部となり. *to make ourselves happy* は. 恰も一の形容詞の如く. *way* と云ふ名詞を修飾す. 又

Some boys are skating on the pond.

の中にて. *on the pond* は. 恰も副詞の如く. *are skating* を修飾す. かく數語集りて一の意義をなし. 場合に依りて或は名詞. 或は形容詞. 或は副詞に均しく用ゐらるゝ時. 其語の結合體を **句 (又は連語) [Phrase]** と云ふ.

而して *to help others* の如きを **名詞**

句 [Noun Phrase]. to be happy の如きを **形容句** [Adjective Phrase]. on the pond の如きを **副詞句** [Adverbial Phrase] と云ふ。

(注意) 句は文の解剖 [次節参照] の時には、之を恰も一つの語の如く取扱ふものとす。

(71) **文章の解剖** [Analysis of Sentences]

とは、一の文を取り、之を其文を組成する各部分に分解説明するを云ふ。以下其方法を説くべし。

(72) 文章を解剖するには、先づ文を **主部** と **叙述部** に二分し [9 節参照]。主部中の **主語** を求め、叙述部中の **叙述動詞** を検すべし。此時前章に述べたる四種の動詞の性質を標準として、若し不全動詞ならば此れが **補足語** を求め、若しまた他動詞ならば此れが **目的語** を求むべし。

主語	動詞	目的語	補足語
Winter	has come.		
It	is		very cold.
The poor birds	can not find	enough food.	
The frost	has made	the ground	very hard.

(注意) **主語**、**叙述動詞**、及 **目的語** (他動詞の時には)、或は **補足語** (不全動詞の時には) は、文章を構成する上に、必要缺くべからざる成分なれば、之を文の **主要成分** [Principal Elements] と稱す。

(73) 然る後、**名詞** (或は **名詞相當詞**) を修飾する **形容詞** と、**動詞** (或は **形容詞**、又は他の **副詞**) を修飾する **副詞** とを取り、それぞれ何を修飾するかを調ふべし。形容詞及副詞は共に他の語を修飾するものなれば、場合に依り之を **修飾部** 又は **修飾語** [Modifier] と稱す。

(注意) [1] 前節の文中にある poor, enough, the 等は形容詞にして very, not 等は副詞なり。

(注意) [2] 修飾部の存在は文章の成立に必要な条件に非ず。故に修飾部を、文の従属成分 [Subordinate Elements] と稱す。

(注意) [3] 尤も冠詞或ひは、give の如き動詞に附する副詞句 to him の如き [63 節] は、之を其他の修飾部と比すれば、文の成立に關係甚だ深きを觀る。

(74) 第一様式. 完全自動詞を含む文は、次の四成分を含む事を得。[66 節]

主 部		敘 述 部	
主-修	主 語	動 詞	動-修
	Bees	hum.	
Warm	winds	blow.	
The	sun	shines	in the blue sky.

(注意) [1] 主-修. 即ち主語に屬する修飾部 [Subject-Modifier] は、多く形容詞又は形容句

にして、之を形容的修飾部 [Adjectival Modifier] 又は連體添加詞 [Attributive Adjunct] と稱することあり。

動-修. 即ち叙述動詞に屬する修飾部 [Predicate-Modifier] は多く副詞又は副詞句にして、之を副詞的修飾部 [Adverbial Modifier] 又は副詞的添加詞 [Adverbial Adjunct] と云ふとあり。

(注意) [2] 上例に於ても明なる如く、第一様式に屬するものは、必ず表にあげたる四部を備ふと云ふにあらず、修飾部の如きは之を有することもあり、又缺くこともありと知るべし。

(注意) [3] 主語に屬する修飾部は、若し形容句なる時は、之を主語の次に置くを常とす。

A bird in the hand is worth two in the bush.

To help others is the way to make ourselves happy

此事は目的語、補足語等の修飾部の場合にも、亦同様なる事、上例にて明かなるべし。

(注意) [4] 動詞の修飾部の位置は、必ずしも動詞の次に限るに非らず、動詞の直ぐ前に來ることもあり、又文の初に置くこともあり。但し解剖の表には動-修の欄内に入るべし。

He *always* smiles. (動詞の前)

Last Sunday he went to Paris. (文の初)

(75) 第二様式. 不全自動詞を含む文は次の四成分を含むことを得。[66節 (b) 参照]

主 部		敘 述 部		
主-修	主 語	動 詞	補 足 部	動-修
	G. Washington	was	a good boy.	
The little	boy	was	honest	always.

(注意) 委しく解剖すれば、補足部を、補足語 (boy の如き) と其修飾部 (a good の如き) とに分つべきものなれども、複雑となる虞あれば、補足部全體を姑く其儘となしおらん方、文脈通覽に便なり。

(76) 第三様式. 動詞が完全他動詞なる時は、全文を次の五成分に分つを得。[66節 (c) 参照]

主 部		敘 述 部		
主-修	主 語	動 詞	目 的 部	動-修
	He	frightened	many smaller animals.	
Poor	birds	can find	enough food	not.
His	aunt	gave	it	to him.

(注意) (1) 精密を欲する場合には、目的部は之を目的語 (animals の如き) と目的語の修飾部 (many smaller の如き) とに分つ可きものなれども、簡明を期する爲めには、姑く之を上如く一の目的部となし置きて差支なし。

(注意) (2) 否定語 not は副詞なれば、動-修に入るべし。

(注意) (3) give の如き動詞も之に屬す。

(77) 第四様式. 敘述動詞が不全他動詞なる時は、次の六成分を含むことを得。[66節 (d) 参照]

XIV. FINITE VERBS.



Is this girl your sister?

Yes, she is.

Does she go to school?

Yes, she goes to school every day.

Can she speak French?

Yes, she can speak French very well. Last year she went to Paris with her father.

While there she visited many places of interest.

(80) Yes, she *is* (my sister).

She *goes* to school.

に於て. *is*, *goes* は共に主語に就きて. 「斯々なり」と治定的に敘述をなせる動詞なり. 之を敘述動詞と稱する由は既に言へり. [13節]

而してかゝる動詞は主語の數及人稱に由りて. 其形を限定せらる. 故に敘述動詞を稱して又**治定動詞** [Finite Verb] と云ふ.

(注意) 即ち *is*, *goes* は共に單數. 第三人稱にのみ限定せられたる治定動詞なり.

(備考) 邦語の「治定」と云ふ名は. 主語に就き「しかじか也」と断定する意を寓し. 英語の Finite は主語の數. 人稱に由りて限定せらるゝ意を寓す. 而して「定まる」と云ふ觀念に至りては兩者即ち一なり.

(81) *Be* と云ふ動詞は. 其主語の數. 人稱に由りて次の如く變化す.

人稱 \ 數	單 數	複 數
第一人称	I am	we are
第二人称	you are	you are
第三人称	he she it } is	They are

第一人称	I was	we were
第二人称	you were	you were
第三人称	he she it } was	they were

have は次の如き變化をなす。

第一人称	I have	we have
第二人称	you have	you have
第三人称	he she it } has	they have

(注意) had となれば、數、人稱によりて變化すること無し。是に由りて have の變化は、唯單數、第三人稱(現在) [has] のみに止まるを知るべし。

(82) She goes to school every day.

be, have 以外の動詞に在りては、主語が單數、第三人稱なる時にのみ、其語尾に s 又は es を附す。

人稱 \ 數	單 數	複 數
第一人称	I speak " go	we speak " go
第二人称	you speak " go	you speak " go
第三人称	he she it } speaks goes	they speak " go

(設問) do の變化を口頭にて述べよ。

(注意) [1] 但し此變化は、動詞が現在時相(88節参照)の場合に限る。

(対照) $\begin{cases} \text{I go} & \text{I went} \\ \text{He goes} & \text{He went} \end{cases}$

即ち「治定動詞は主語の數、人稱に由りて變化す」(80節)と云ふ事は、實用上にては唯單數第三人稱(現在)の時に、s又はesを附すと云ふ事に歸着するなり。

(注意) [2] 綴字上の注意。

$\begin{cases} \text{He speaks} & \text{He tries} \\ \text{He comes} & \text{He teaches} \end{cases}$

[71節を参照せよ]

(注意) [3] 數に就きて考ふれば、名詞と動詞と反對なる點あるを認むべし。

單 數	複 數
The boy plays.	Boys play.

[動詞にsを附す] [名詞にsを附す]

(83) *Can* she speak French?

She *can* speak French.

に於ける如く助動詞*can*は數、人稱に由りて形を變ずることなし。

*may, must, shall, will*等の助動詞も亦*can*と同様なり。

(設問) 82節の表に倣ひ、試みに *I can speak, you can speak*の如き表を作れ、更に *may*等に對して之を作るも猶可なり。

(84) 以上に擧げたる變化は (*was*と*were*を除き)、専ら現在の事を述ぶる時の形なるが、殆ど凡ての動詞は又過ぎ去りし事を述ぶる時に於て、別の形を有す。例へば

Last year she *went* to Paris with her father.

While there she *visited* many places of interest.

に於ける *went, visited*の如し。

*go, call*の如き形を現在 [Present]の形

[委しく云へば複数現在の形]と云ひ、
went, visited の如き形を**過去 [Past]**の形
と云ふ。

此他に**過去分詞 [Past Participle]**と云
ふ形あり [238 節に委し]. 主として助動
詞 be, have 等と合して are spoken, have
gone の如き形を作るに用ゐらる。

現在、過去、過去分詞の三形は、動
詞の一切の變化の基本となるもの
なれば、此三形を**動詞の三基本形**
[Three Principal Parts] と稱す。而して動
詞を此三基本形に變化せしむるこ
とを、**其活用 [Conjugation]**と云ふ。

(注意) 單に現在形と云へば、數、人稱に由り
て形を異にするが故に紛らはしきを以て、複
數現在形にtoを加へたる形(to goの如き)即ち
不定詞 [Infinitive]と云ふ形を用ゐること多し。

不定詞形	過去形	過去分詞形
To go	I went	have gone
To speak	I spoke	have spoken
To visit	I visited	have visited

(85) 而して visit の如きは、現在形に
-ed を附すれば、直に過去形、過去分
詞形を作るを得るが故に、其構成極
めて容易なり。斯く現在形に -ed [又
は d] を附して過去形及過去分詞形
を作るものを**規則動詞 [Regular Verb]**と
云ひ、此規則に依らずして過去形及
過去分詞形を作るもの(即ち go, speak
の如き)を**不規則動詞 [Irregular Verb]**
と云ふ。

(86) 規則動詞に ed を加ふる時、綴
字上に注意を要す。次の如し。

(a) 語尾に e ある時は d のみを加ふ。

to like I liked have liked
 „ smile „ smiled „ smiled

(b) 一音節にて最終の父音の前に、短母音ある語は、父字を重ね

to stop I stopped have stopped
 „ pat „ patted „ patted

(c) 最終の音節に accent ありて、父字にて終れる時は其父字を重ね。

to admit' I admit'ted have admit'ted
 „ prefer' „ prefer'ed „ prefer'ed

[對比 to lim'it I lim'ited have lim'ited]

(注意) ed, d の發音に就きては附録部 270 節を参照すべし。

(87) 不規則動詞の中、最も普通なるものは之を諳記し置くべし。[附録部 273 節参照]

(備考) 時間の都合に由り 273 節をも序に學ぶべし。

復習表

治定動詞..... { 主語の數と人稱に一致す
 be, have 及助動詞の變化
 單數第三人稱に -s

基本三形.....不定詞, 過去, 過去分詞

動詞の活用 { 規則動詞
 不規則動詞

EXERCISE.

- I. 第十章例文 (60 頁) の the pupils を William と變じ、之に應じて必要なる動詞の變化をなすべし。
- II. 第七章練習 III. (42 頁) の名詞を盡く複數に變じ、其動詞に及ぼす變化を記せ。
- III. 次の邦文の心を英語にて述べよ。
 1. 彼は誰れです。
 2. あれは私の兄です。
 3. 私の兄は大層よく英語が書けます。
 4. 君には叔父さんがいますか。
 5. 私には二人あります。

XV. TENSES.



I love my uncle.

He is now in Scotland.

I write to him twice a month.

I wrote a long letter to him last Monday.

Next time I shall write about the excursion.

(88) I love my uncle.

He is now in Scotland.

の love, is の如きは、漫然と現在の動作、状態を表す。故に love, is 等の如きを **現在時相 [Present Tense]** なりと稱す。

現在の時相は又多く、常に習慣上

然かする事及び一般に眞理と見做さるゝ事を表すに用ゐらる。

(a) 習慣となれる事を記す場合.

I write to him twice a month.

John goes to school every day.

(b) 眞理と見做さるゝ事を示す場合.

The sun gives us light.

Honesty is the best policy.

(注意) [1] 現在、動作の行はれつゝある事を表すには、次章 [96 節] に説く進行形を用ゐること多し。

(注意) [2] 時としては過去の事柄を述ぶるに、現在の時相を以てすることあり。是れ、物語をして、紙上に躍如たらしめんが爲に然かせらるゝものにして、之を**歴史的現在 [Historic Present]** の時相と稱す。

It is the day for the death of Androclus. The great circus is crowded with men and women. In the arena, pale and trembling, stands Androclus, hardly daring to look up, for not a face shows signs of pity. Suddenly a

huge lion *leaps* into the arena, and *darts* forward upon Androclus with gaping jaws.

Cesar *leaves* Gaul, *crosses* the Rubicon, and *enters* Italy at the head of five thousand men.

(備考) 邦文に於ける歴史的現在時相の例。

弓手の方に材木多く満ちたるに、悪源太の乗り給へる馬、かたなつけの駒にて、材木にや驚きけん、馬手の方へ蹶飛んで、小膝を折りてどうと伏す。鎌田兵衛延ばきじと十三束取つて突ひ、能つ引いてひようと射る。重盛の射向けの袖に、はたと申りて飛び返る。(平治物語)

(89) I *wrote* a long letter to him last Monday.

に於て、*wrote* は手紙を記す動作をば、漫然と過去の事として表すなり。之を**過去の時相 [Past Tense]**と云ふ。

(注意) 此形は時相を表すと云ふより、寧ろ其動作を表すを主とせるものにして、唯之を過去の時の中にて表せるに過ぎざるなり。此時相は多く明に過去を表せる修飾語と伴ふ。

In 1793 a great war *broke* out between England and

France. It *lasted* for twenty-two years, until the great battle of Waterloo *put* an end to it in the year 1815.

(90) Next time I *shall write* about the excursion.

に於て、*shall write* は或は近き、或は遠き将来に於て動作を爲さんことを表す。斯く漫然と将来に於てなすべき動作を表す時相を**未来の時相 [Future Tense]**と稱す。

未来の時相を表すには、*to* 無き不定詞形に、*shall* 又は *will* を附す。

I shall write	we shall write
you will write	you will write
he } will write	they will write
she }	
it }	

I shall write a composition to-morrow.

I suppose you will also write one to-morrow.

He will write one to-morrow.

疑問文に於ては、第二人称に於ても shall を用ゐるものとす。

Shall I write?	Shall we write?
Shall you write?	Shall you write?
Will { he write? she write? it write?	Will they write?

Shall I be punished to-morrow, I wonder?

Shall you go to the book-shop to-morrow?

Will he go to the book-shop to-morrow?

(注意) shall 及び will は此他にも用ゐれども、其時は獨立せる意義を有し、未來を表すものにあらず。今便宜の爲め併せて説明し、以て對照に便にす。

(設問) 上掲の表中 write の代りに be を入れ、be の未來時相の活用を口頭にて云ひ試むべし。

[第二部 第八章の次、第二打出表参照]

(91) 第一人称に will を用ゐれば、意志 (intention) 即ち「何々せんと欲す」の意味を表す。

I will call on you to-day, and then we shall talk about it.

(92) you shall, he shall は、話をなす人が、其意志を you 又は he に及ぼすことを表す。換言すれば、談話者 (speaker) の「決心」を表すなり。

If you want that book, you shall have it. (=I will give it to you.)

If you can not read that book, you shall not go out to play.

I am sorry for that poor boy; he shall have sixpence when he comes again.

(93) 疑問文に於ては、shall you? は未來を表し、will you? は第二人称の意志を問ふに用ゐる。

Shall you be here to-morrow?

(明日此處へ入らつしやる御都合になつて居りますか)

Will you be here to-morrow?

(明日來て下さいませんか)

(94) 現在. 過去. 未來の如き時を表す爲の動詞の活用を. 時相 [Tense] と云ふ。

(注意) 以上の三個の時相を三個の常態の時相 [Three Primary Tenses] とし又は三個の漫然時相 [Three Indefinite Tenses] とし云ふ。

復 習 表

時 相	}	現在.....	現在. 習慣. 眞理				
		過去					
		未來.....	<table border="0"> <tr> <td>I shall</td> <td>shall I?</td> </tr> <tr> <td>you will</td> <td>shall you?</td> </tr> <tr> <td>he will</td> <td>will he?</td> </tr> </table>	I shall	shall I?	you will	shall you?
I shall	shall I?						
you will	shall you?						
he will	will he?						

EXERCISE.

I. 次の心を英語にて述べよ。

1. 昨日は何處へお出でなさいましたか。
2. Hyde Park へ参りました。
3. 明日も彼所へ御出でなさいますか。
4. 私は毎日午後は彼所へ行きます。
5. では是非私も御伴致したうございます。

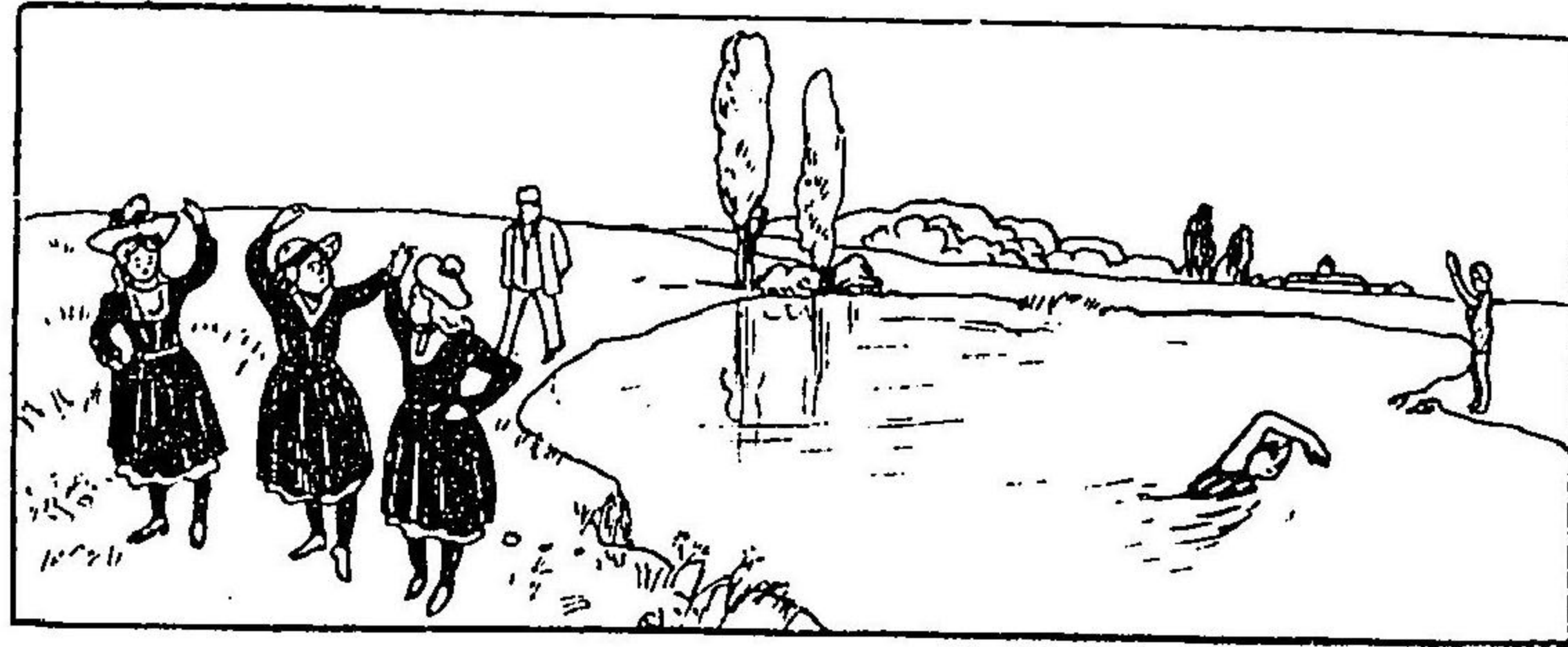
II. Shall 又は will を入れよ。

1. — you come out with me?
2. Yes, I —.
3. Do you think your brother — come with me too?
4. I suppose he —.

III. 次の文の時相を (a) 過去に變へ (b) 又未來 (第一人稱及第三人稱) に變へよ。

1. I sit down at table.
2. I place my napkin on my knees.
3. I eat a plateful of soup.
4. I help myself to some meat and vegetables.
5. I drink a cup of tea.
6. For dessert I eat some cakes and fruit.
7. I stand up, and leave the table.

XVI. PROGRESSIVE FORMS.



What are the boys doing?

One boy is swimming; and the other is just going to jump into the water.

Do you see a man by the river?

He is walking towards the girls who are dancing.

(95) He *is walking* towards the children who *are dancing*.

に於て、*is walking* 及び *are dancing* は共に、現在 *walk* 及び *dance* と云ふ働作をなし

居る事を表す。かく働作が今進行の最中なるを表す形を、動詞の**進行形** [Progressive Form] と云ふ。而して *is walking*, *are dancing* は**進行形の現在時相**なり。

(設問) 例文中に猶進行形ありや。

(96) 常態の**現在時相**は、平常習慣となれる働作を表し、**進行形の現在時相**は、今其働作をなす所なるを表す。

対照 { *He walks* two miles every morning.
He is walking towards the children.

(注意) *be*, *have*, *belong*, *see*, *hear*, *understand*, *know*, *love*, *hate*, *like* 等の如く、繼續する状態を表す動詞は進行形に用ゐず。[88 節]

My uncle *is* in Scotland.

I *have* the book. (I am having と云はず。)

(97) **進行形**を作るには、*be* の變化に添ふるに、動詞の現在形に *-ing* を加へし形を以てすべし。例へば *walk* の進行法は下の如し。

現		在	
I am	walking	we are	walking
you are	walking	you are	walking
he is	} walking	they are	walking
she is			
it is			

過		去	
I was	walking		
you were	walking		
he was	walking		

未		來	
I shall be	walking		
you will be	walking		
he will be	walking		

(例) While he *was travelling* alone in the Arabian desert, he met two traders. (過去の進行形)

When you come to-morrow, I *shall be writing* a composition. (未来の進行形)

(設問) 複数の過去及未来時相進行形を口述せよ。

(98) The other *is just going to jump* into the water.

に於て. *is going to jump* は. 將に jump せ

んとするをを表す形にして. 一種の未来の時相を示すに用ゐらる。

かくの如き. 將に事をなさんとする形を**將然形** [Immediate Future] と稱す。

此形を作るには. go の進行形に當該動詞の不定詞形を添ふべし。

現		在	
I am going	} to jump		
you are going			
he is going			

過		去	
I was going	} to jump		
you were going			
he was going			

(例) The shark saw the large piece of pork, and *was just going to open* his jaws to swallow it,—when he caught sight of us. (過去の將然法)

(設問) 上の表は單數のみなれば. 複數の場合を口頭にて述べよ。

(注意) [1] 之に由りて going の進行形には. 二種の意味有るを見るべし。

Where are you going now?

I am going to school. (今學校へ行く所です)

[go の進行形]

Are you going to see him to-morrow? (明日訪ねて行かうと思つていらつしやいますか。)

[see の將然形]

(注意) [2] 未來の將然形 I shall be going to jump の如きは殆ど用ゐられず. shall (will) jump も am going to jump も同じ程の未來の意を示せばなり。

(注意) [3] 進行形及將然形の比較圖は196節注意[1]にあり。

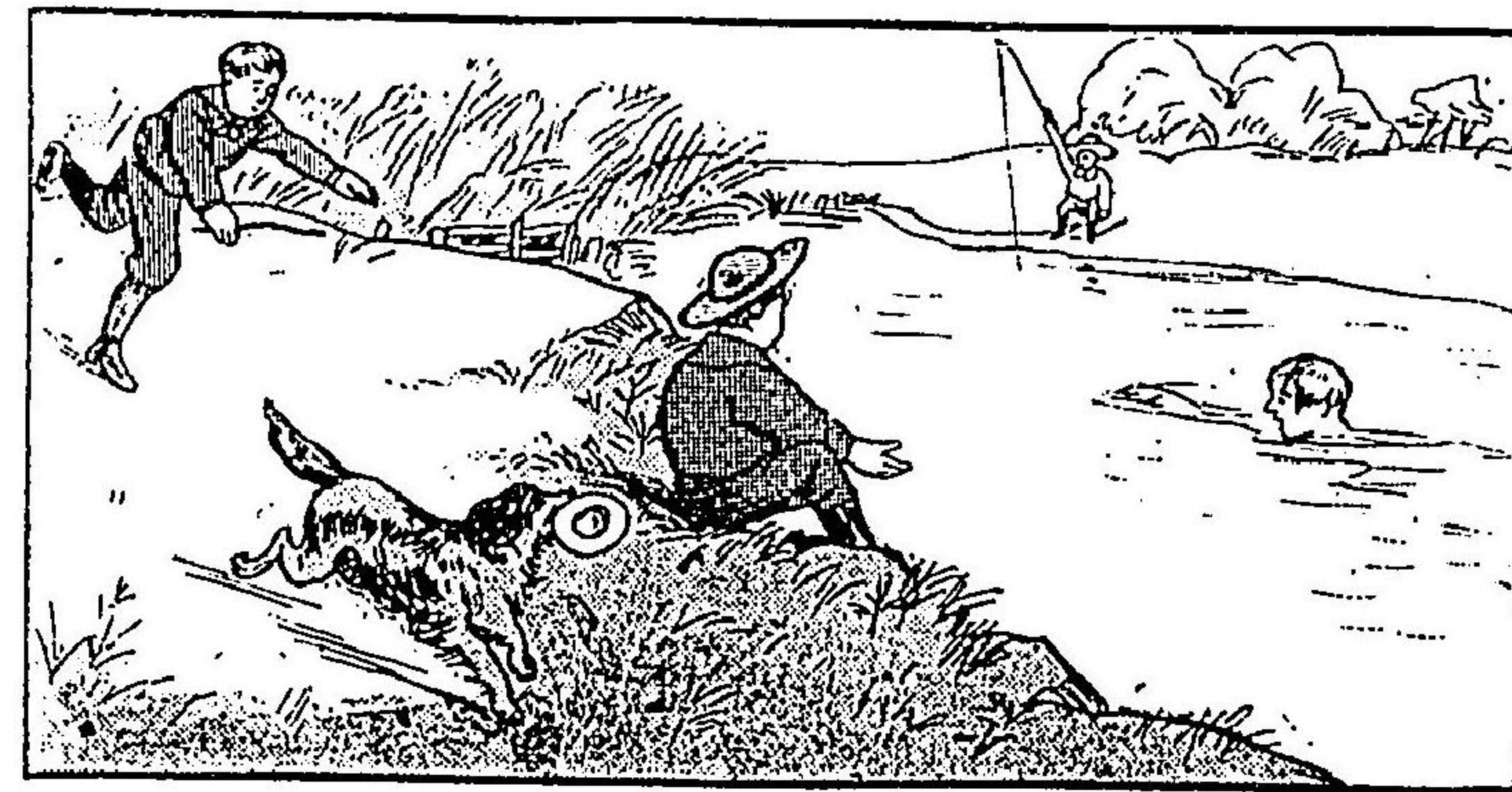
復 習 表

進行形.....Be+ -ing

將然法.....Be+going+不定詞形

EXERCISE.

- I. 次の繪に基き. 進行形又は將然形の動詞を用ゐて. 短文を五個作れ.



- II. 次の文の心を英語にて述べよ。

1. 何處へ御出でなさるのですか。
2. 本屋へ行く所です。
3. 何の本をお買ひなさるお積りですか。
4. お伽話を一冊買はうと思ひます。
5. 國に居る弟に送つてやらうと思ふのです。

XVII. NEGATIVE SENTENCES.



Jack is not a good boy.

He has no book.

He can not read at all.

He does not obey his parents.

He never goes to school.

(99) Jack is not a good boy.

の如きは否定の敘述文なり。[3節注意[1]

参照]. 否定文には多く、副詞 *not* を用ゐる。

其最も簡單なる形は、*be* と *have* とに *not* を添ふる場合とす。

肯 定	否 定
I am	I am <i>not</i>
you are	you are <i>not</i>
he is	he is <i>not</i>
I have	I have <i>not</i>
you have	you have <i>not</i>
he has	he has <i>not</i>

(注意) 過去も之に準ず。[I was not, I had not 等]

(設問) 複数の場合、過去の場合を口述せよ。

(100) He can not read at all.

に於ける如く、治定動詞が、助動詞 (*can*) と本動詞 (*write*) との二語より成る時は、*not* を其間に挿入すべし。

肯 定	否 定
I can read You can read He can read	I can <i>not</i> read You can <i>not</i> read He can <i>not</i> read

(注意) [1] 過去も之に準ず。

(注意) [2] can と同様の構造をなすものは、may, must, shall, will 等なり。[96 節参考]

(設問) read の未来時相否定形は如何。[第二部第八章の次、第二打出表を参照すべし]

(101) He does not obey his parents.

にて見る如く、be, have 以外の動詞の否定形を作るには、助動詞 do の補助を借るものとす。

肯 定	否 定
I obey You obey He obeys	I <i>do not</i> obey You <i>do not</i> obey He <i>does not</i> obey

(注意) [1]

(對照) { He obeys his parents.
He does not obey his parents.

He *does not obey*. にして、He *obeys not* his parents 又は He *does not obeys*. にあらざるを注意すべし。

(注意) [2] 過去も之に準ず。[I did not obey, etc.]

(注意) [3] 未来の時は shall, will を用ゐて、do を要せず。[I shall not obey, etc.] [100 節設問参照]

(注意) [4] 會話體にては He isn't, I haven't, you can't, I don't の如き形を用ゐる。

(102) He has no book.

He never goes to school.

の如く、no, never 等を用ゐて、否定を表す時は not を用ゐず。又 do の助を借らざるものとす。

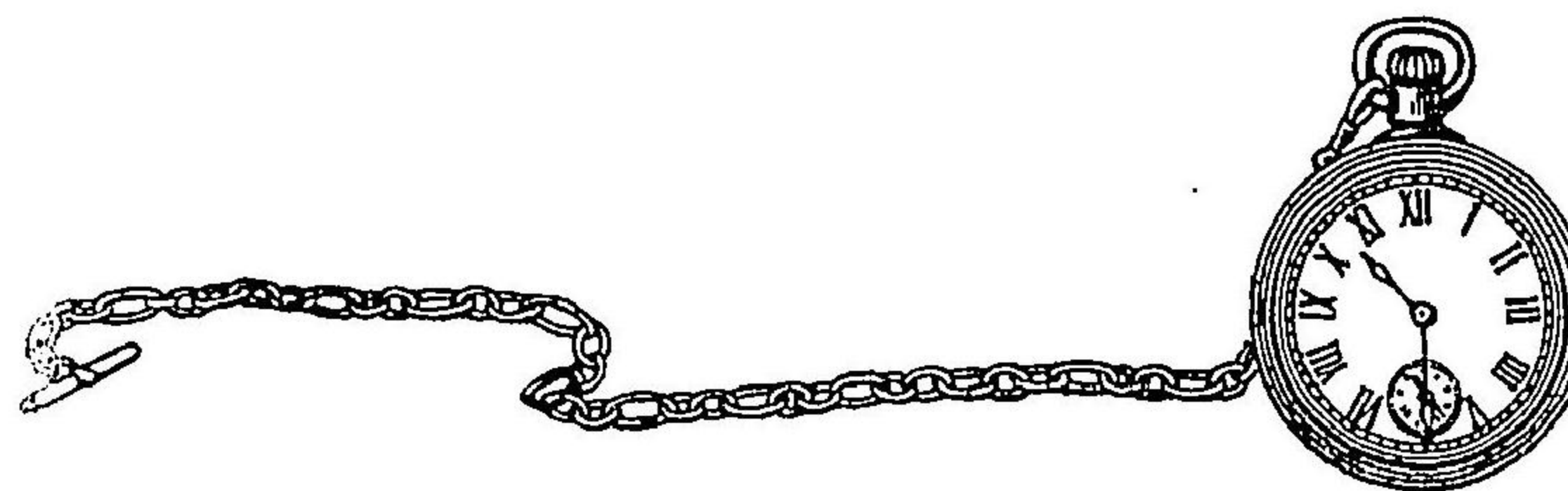
復習表

否定形	}	be.....(is not)
		has.....(has not)
		助動詞.....(can not)
		其他の動詞...(do not read)

EXERCISE.

- I. 次の文を否定形に變へよ。
1. George is a good boy.
 2. He goes to school every day.
 3. He learns his lessons very well.
 4. He has an interesting book.
 5. He can read it.
- II. 第十五章の例文 [94 頁] を否定文に變へよ。

XVIII. INTERROGATIVE SENTENCES.



Have you a watch?

Is it a silver watch?

Your father gave it to you, did he not?

Does it keep exact time?

How many times a day do you wind it?

Can you tell me the right time at once?

What time is it now, for instance?

(103) Have you a watch?

Is it a silver watch?

等にて見る如く、疑問文 [4 節] に於ては、主語と動詞との位置轉換し、動

詞先づ文の初に來り. 主語之に次ぐものとす。

此轉換の最も簡單なるは. have 及 be に於て之を見る。

敘述文	疑問文
I am.	Am I?
You are.	Are you?
He is.	Is he?

(注意) 過去時相も之に倣ふ。

敘述文	疑問文
I have.	Have I?
You have.	Have you?
He has.	Has he?

(注意) [1] 否定の疑問文. 即 not を含める疑問文に於ては. 次の二種の形を生ず。

主語が名詞の時 { Is *not* the boy your brother?
Has *not* the boy a watch?

主語が代名詞の時 { Is he *not* your brother?
Has he *not* a watch?

(注意) [2] 會話體にては Isn't he, Hasn't he 等の省略形を用ゐる。

(注意) [3] 日本語に於ける疑問文は. 敘述文の終りに. 「か」「や」等を附して之を作る例なれば. 語の全體の順序. 爲に變動を來すことなしと雖も. 英語に於ては然らず. 敘述文と疑問文とは. 語の配列上に大なる變動あり. 學ぶ者充分此點に注意すべし。

(104) *Can you tell me the right time at once?*

の如く. 治定動詞が助動詞 (can) と本動詞 (tell) との二語より成る時は. 助動詞を文の初に置き. 本動詞を主語

の次に置く。之を表示すれば次の如し。

敘述文	疑問文
I can tell.	Can I tell?
You can tell.	Can you tell?
He can tell.	Can he tell?

(注意) [1] 過去時相も之に倣ふ。

(注意) [2] Can と同様の取扱をなすべきものは、may, must, will, shall 等なり。[83 節及 100 節参照]

(設問) tell の未來時相の疑問形を述べよ。[第二打出表参照]

(105) Does it keep exact time?

にて見る如く、be, have を除きたる其他の動詞を疑問の形となすには、之に助動詞 do を補ふものとす。

敘述文	疑問文
I keep.	Do I keep?
You keep.	Do you keep?
He keeps.	Does he keep?

(注意) 過去時相も之に倣ふ。

(106) 以上は正式の疑問文なれども、此外に一旦敘述文を用ゐ、其終りに之に關する質問を言ひ添へて一種の疑問文を作るゝあり。

Your father gave it to you, did he not?
の如し。

(注意) 原文が肯定文なれば、否定疑問形を附し、原文が否定文なれば、肯定疑問形を附するを通常とす。

It keeps exact time, does it not?

You have a watch, have you not?

He cannot read, can he?

(107) How many times a day do you wind it?

What time is it now, for instance?

の如く How, what 等の如き. 疑問を發する語ある場合には. かゝる語を疑問文の初に置くべし.

(注意) 103節—105節の疑問文は. 其答に yes, no を用ゐ得べきものにして. 之を發音するには 其語尾を上ぐるものとす. 本節の疑問文は ye no を以て答へ得ざる疑問文にして. 發音する時. 語尾を上ぐることを要せず.

復 習 表

疑問文 { be.....(Are you?)
 have.....(Have you?)
 助動詞.....(Can you read?)
 其他の動詞...(Do you read?)

二種の疑問文 { Have you a book?
 What have you?

EXERCISE.

下の文に就き. 出來得る限り多くの疑問文を作るべし.

MODEL. The old man is cutting branches.

Who is cutting branches?

What is the old man doing?

What is he cutting?

Is he cutting branches?



1. A little girl is kneeling on the road.
2. She is feeding the ducklings.
3. We see three hens behind her.
4. There are five ducklings.
5. The ducks feed on grain.

XIX. INTERROGATIVE PRONOUNS AND ADVERBS.



- What has the boy?
- What kind of a basket is it?
- Who gave him the basket?
- In which hand does he hold it?
- How many apples has he?
- Where did he get the apples?
- When did he go to the garden?
- Why is he smiling?

- (108) *What* has the boy?
- Who* gave him the basket?

who (?), what (?), 及び which (?) は. 人又は物に就いて疑問を發する爲に用ゐる詞にして. 普通に之を**疑問代名詞** [Interrogative Pronoun] と云ふ.

(109) 疑問代名詞に. 格に由りて形を變ずる者と. 然らざるものとあり. 次の如し.

主 格	所有格	目的格
who (?)	whose (?)	whom (?)
what (?)	what (?)
which (?)	which (?)

(110) 疑問代名詞は. 之を文の初に置く.

(注意) 時としては. 前置詞が疑問代名詞の前に置かるゝ事あり.

In which hand does he hold it?

(111) 疑問代名詞が. 文の主語なる時

は be, have 以外の動詞にも(現在・過去時相とも) do の助を借らず。

Who gave him the basket? [did give に非ず]

What comes next?

Which of them came yesterday?

(112) 疑問代名詞の中、**who** (?) は人に用ゐる。**what** (?) は人又は物に用ゐる。**which** (?) は人又は物に用ゐる。且つ一群中の何れなるかを選ぶ時に用ゐる。

對 比 { Who is he? (人の姓名を問ふ)
What is he? (人の身分を問ふ)
Which is he? (いずれが其人なるかを問ふ)

(113) *What kind of a basket is it?*

In which hand does he hold it?

の如く。疑問代名詞 what, which は、名詞の前に置き、之を修飾すること有り。

斯かる場合には、之を疑問代名詞の**形容詞的用法** [Adjectival Use] と稱す。

[163 節と對比]

(114) *How many apples has he?*

Where did he get the apples?

When did he go to the garden?

Why is he smiling?

に於ける how, where, when, why 等は疑問を表す副詞にして、之を**疑問副詞** [Interrogative Adverb] と稱す。疑問副詞は疑問代名詞の如く、文の初に置く。

(115) **how** は有様を問ふに用ゐるものにして、其次に副詞、形容詞を置くこと多し。

How is he? How do you do?

How old is he?

How often did he come?

How many apples has he?

How long are you going to stay here? (いつまで)

復 習 表

疑問代名詞 { who (?).....[格の變化]
 { what (?) }[形容詞的用法]
 { which (?) }

疑問副詞 { when (?)
 { where (?)
 { why (?)
 { how (?)

EXERCISE.

I. 次の心を英語にて述べよ。

1. あの人は誰ですか。(Fred です)。
2. 誰を探して居るのですか。(James を探して居るのです)

3. 何を有つて居ますか。(本を二冊有つて居ます)。
4. 誰の本を有つて居るのですか。(James の本を有つて居るのです)。
5. 二冊本を有つて居ますが、どつちが James ののですか。(多分小さいのが James のでせう)。

6. 何時こちらへ御着きなさいました。昨日着きました。
7. 先週は何處へ御出でなさいましたか。
8. 彼處はどんなでした。
9. 何時までそこで御暮しでしたか。
10. 其處には何人位人が居ましたか。

II. 第三章練習 III. (17 頁) の繪に就き、疑問代名詞、又は疑問副詞を含む文を四個作れ。

XX. EXCLAMATORY SENTENCES.



Dear me! What is that?

That is a snow man.

Oh, what a big pipe he has!

How tall he is!

(116) Oh, what a big pipe he has!

How tall he is!

の如き感嘆文 [5 節] を見るに. 主語の次に動詞を置くとは敘述文と異ならざれども. 動詞の次にあるべき目的語 (pipe の如き) 或は補足語 (tall

の如き) が. 却つて主語に先だち. 且つ文の初に. 感嘆の意を示す爲めの what, how 等の存するを認む.

感嘆文に於ては. 目的部. 補足部或は又副詞等が. 主語の前に来るを常とす.

(注意) [1] 次の二文を對照せよ.

{ He has a big pipe.
{ What a big pipe he has!

{ He is tall.
{ How tall he is!

{ The dog ran fast.
{ How fast the dog ran!

(注意) [2] 疑問代名詞 what (形容詞的に用ゐられたる時). 及疑問副詞 how は屢々感嘆文に用ゐらる.

(117) 感嘆文の初めに置く how と what との異同を述べれば. what は其次に

名詞を有し、且つ單數名詞なれば *a* を有すれども、**how** は其次に名詞を有せず。

{ It is very pretty.
 { *How* pretty it is!

{ It is *a* pretty book.
 { *What a* pretty book it is!

(注意) [1] 稀には **how** を名詞と共に用ゐると有り。其時は *a* の位置は、次の如くなるを注意すべし。

{ *What a* pretty book it is!
 { *How* pretty *a* book it is!

(注意) [2] 次の語の順序の差違に注意せよ。

{ 感嘆文 *How* late it is!
 { 疑問文 *How* late is it?

{ 感嘆文 *What an* interesting book you have!
 { 疑問文 *What* interesting books have you?

(118) Dear me! Oh! の如きは感情を

表すに用ゐる詞にして、文章の他の部分に關係なく、其間に入れ使用せらるるを以て、之を **間投詞** [Interjection] と云ふ。

(注意) [1] 間投詞は又、感嘆詞とも稱せらる。

(注意) [2] 間投詞は、文章解剖の時には、之を獨立成分 [78 節] の中に入るべし。

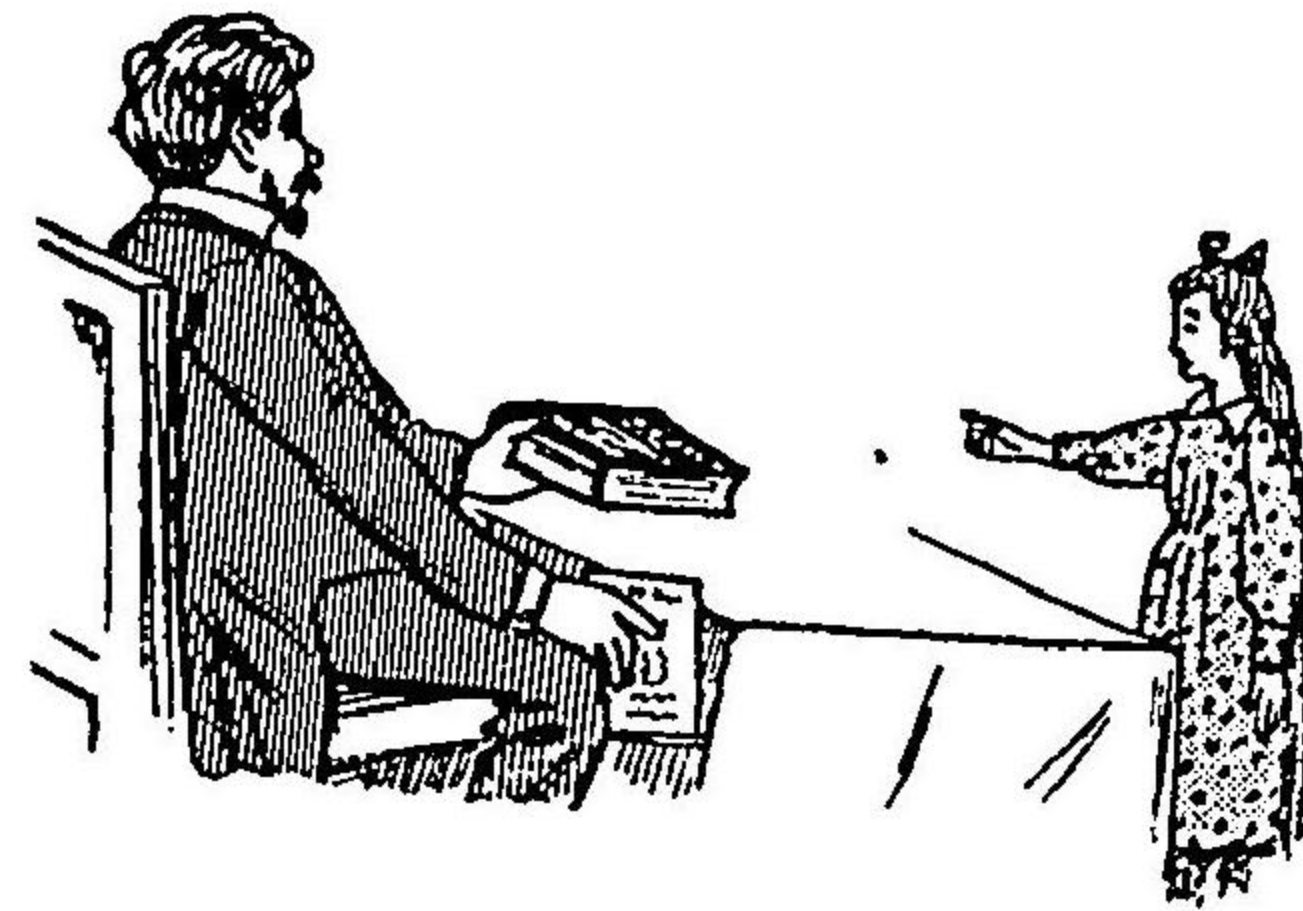
EXERCISE.

I. 次の文を感嘆文に變せよ。

1. Mary has a pretty cat.
2. It is a white cat.
3. Its fur is very soft.
4. It can run very fast.
5. It caught a very large rat.

II. 第十九章の繪 [120 頁] を見て、二個の感嘆文を作れ。

XXI. IMPERATIVE SENTENCES.



Come here, Mary.

Which of these books do you like to have?

Please give me the thick one.

Yes, I will, but do not lose it.

Let your brothers look at the pictures too.

Be always kind to them.

(119) Come here, Mary.

Please give me the thick one.

等に於て明かなる如く、命令文は第二人称の者に向ひて用ゐるものなれども、主語は大概之を省く定めなり。

(注意) [1] Come here, Mary. の Mary を主語と混同すべからず。是は呼び掛けの主格 [Nominative of Address] と云ひて、文章の他の部分に關係無き一の獨立成分なり。

(注意) [2] 稀には主語を表すとあり。

Well, Ned, you stand by that tree.

(120) 命令文に於ては、動詞は常に現在にして、不定詞形より to を省きたる形を用ゐる。

(注意) かゝる形の動詞を、命令法 [Imperative Mood] の動詞と云ふ。

(121) Do not lose it.

否定の命令文を作るには、唯 not のみならず、又 do をも加ふべし。

(注意) [1] 但し not 以外の否定を示す語 (例 never, no, none, neither, nor 等) を用ゐる場合には、do の助を借らず。

Never lose it.

(注意) [2] 形容詞が補足語となれる時には、
本動詞として be を用ゐる事を忘るべからず。

Be always kind to them.

Don't be idle.

(122) *Let your brothers look at the pictures.*
に於て見る如く、第三人稱に間接に
命令法を用ゐんとする時には、let を
補ふものとす。

Let them do what they like.

Let him come.

又 let は第一人稱にも用ゐる。

Let me go.

(注意) *Let us* には人を誘ふ意あり。

Let us go to the park.

(123) 命令法は、請願の意を表すに
も亦用ゐらる。

Please pardon me.

Lend me your knife, if you please.

(124) 疑問文、感嘆文、命令文等を解
剖するには、敘述文に於けると同様の
の方法に由るべし。

例へば *Have you a watch?*

Who gave him the basket?

How tall he is!

Come here, Mary.

等を解剖すれば次の如し。

主-修	主 部				
	主 語	動 詞	目 的 部	補 足 部	動-修
...	you	have	a watch
...	who	gave	the basket	...	him
....	he	is	...	how tall	...
Mary	...	come	here

(注意) 尤も解剖する時に、其文が何種類の文
に屬するかは、之を欄外に附記し置くを可と
す。

復習表

文章..... { 敘述文
疑問文
感嘆文
命令文

EXERCISE

次の文の心を英語にて述べよ。

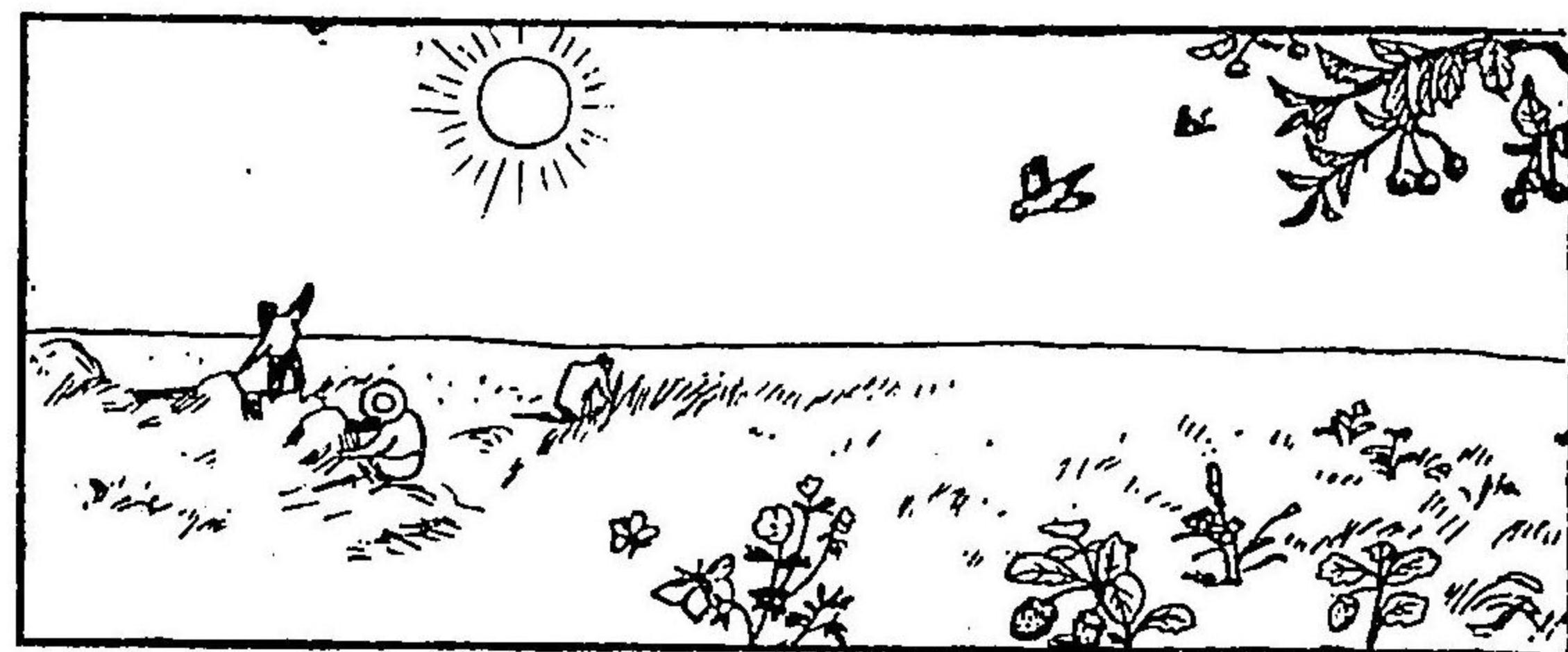
1. 兄さん其本を見せて下さい。
2. 汚なくしてはいけませんよ。
3. 暫く貸して下さいな。
4. 返すのを忘れてはいけませんよ。
5. よく読んで御覧なさい。
6. 明朝私の處へ御出でなさい。
7. John もよこして下さい。
8. 一所に散歩しやうではありませんか。

REVIEW EXERCISE.

(時間の都合にて之を略すも可なり)

- I. 文章には四種の別ありとは何々なるか。例を挙げよ。
- II. 次の心を英語にて述べよ。
 1. 何とまあ美しい本をお持ちですことね。拜見してもよろしう御座いますか。
 2. あゝよう御座いますとも、まあ一寸此繪を御覧なさい。美しいではありませんか。
 3. さうですね。どこでお求めでしたか。
 4. 買ったのではありません。おぢいさんから貰つたのです。
 5. まあいゝおぢいさんですことね。いつお貰ひでしたか。
 6. 僕の此間の誕生日に下さつたのです。
- III. 上の練習 II の 1. 2. 3. を英語にて記し、其英文を解剖せよ。

XXII. COMPOUND SENTENCES.



In summer the sun shines bright over our heads.

The air is warm, and the birds sing merrily.
The fields are thick with flowers, and the
gay butterflies are dancing about from
flower to flower.

The grass is cut down and dried.

The cherries and strawberries are now ripe.

(125) In summer the sun shines bright over
our heads.

の如く、一個の主部に對し一個の敘述部を有する文章を單文 [Simple Sentence] と云ふ。第一章より第二十一章までに説きたる文章は、殆ど皆單文に屬す。

(注意) 敘述文、疑問文、感嘆文、命令文等の別は、皆文章の内容に由りて分類せるものにして、本章及次章に説く所は、外形即ち文の組立に由りて分類せるものなり。二者を混同せざるやう注意すべし。

(126) The air is warm, and the birds sing merrily.

は一個の文章には相違無けれども、實は二個の單文を結合せるものに外ならず、何となれば The air is warm. も The birds sing merrily. も、共に主部と敘述部とを備へたる單文なればなり。斯くの如く、二個又は二個以上の

單文が集りて一の文章をなせる時は、其文章を**複文**又は**複合文** [Compound Sentence] と云ふ。

一の文の中に二箇又はそれ以上の單文の含まれたる場合には、其單文の各を、**關聯文**又は**節** [Clause] と稱す。

而して The air is warm. と The birds sing merrily. との如き關聯文は、兩者同等の地歩を有し、互に獨立し得べき者なり。故に其一々を**獨立文** [Independent Clause] と稱す。

(注意) 獨立文は又併立文 [Co-ordinate Clause] とも云ふ事あり。

(設問) 例文中に猶複文ありや。

(127) and の如く、文と文とを結合、**接續する語**を、**接續詞** [Conjunction] と云ふ。

(128) 複文を解剖するには、先づ之を個々の獨立文に分ち、然る後其一一に對して、單文を解剖すると同様の方法を行ふべし。

例へば、126 節の複文を解剖すれば下の如し。

主 部		敘 述 部		
主-修	主語	動詞	補足部	動-修
The	air	is	warm	...

(75 節の第二様式に由る)

接續語	主 部		敘 述 部	
	主-修	主語	動詞	動-修
and	the	birds	sing	merrily

(74 節の第一様式に由る)

(注意) [1] **接續語** [Connective] は解剖の際、之を其他の部分より分けて扱ふものとす。

(注意) [2] 或は (a) (b) 二文を次の如く一所に記すも可なり。

接 續 語	主 部		敘 述 部			
	主-修	主 語	動 詞	目 的 部	補 足 部	動-修
	The	air	is	...	warm	...
and	the	birds	sing	merrily

(129) 複文を作るに當りて、本來の各の單文(即ち獨立文)に就いて其中に通有なる語句は、其一のみを止め、他は悉く之を除き去ることあり。例へば

主 部		敘 述 部		
主-修	主 語	動 詞	補 足 部	動-修
The	cherries	are	ripe	now
The	strawberries	are	ripe	now

を二つ合せて

The cherries and strawberries are now ripe.

となすが如し。

(設問) 之と同様の複文を例文中より求めよ。

復 習 表

複文=獨立文(單文)の集れるもの。

EXERCISE.

- I. 第四章例文 [17 頁] 中の單文を合して、三個の複文とせよ。
- II. 次の複文を解剖せよ。
 1. The poor child had a bad pain in her side, and could not eat her food.
 2. Her father and mother grew very sad about it.
 3. They tried the little one with the nicest bits of wholesome food, but it was all of no use.

XXIII. COMPLEX SENTENCES.



Columbus set sail from Spain in 1492.

When at last he saw the land, he thought that it was India.

So it is to this day called the West Indies.

The people of the island were very much surprised, when they saw the ships of Columbus; for they had never heard of the people who lived in Europe.

(130) The people of the island were very much surprised, when they saw the ships of Columbus.

といふ一の文を見るに。此文は The people of the island were very much surprised と when they saw the ships of Columbus. との二文より成れり。是れ共に關聯文 [126節] なれども。前者は全くそれのみにて獨立するを得る獨立文なるに。後者は前者に附屬せざれば意味充分に明かなるを得ず。換言すれば前者は主にして。後者は従なり。後者の如き關聯文を**附屬文** [Dependent Clause] と云ひ。附屬文に對し。前者の如き獨立文を**主要文**又は**主文** [Principal Clause] と云ふ。

(注意) 附屬文は又從屬文 [Subordinate Clause] とも云ふ。

(131) 前掲の文の如く、一個の主文と、一個又は一個以上の附屬文とより成れる文章を**混文**又は**混合文** [Complex Sentence] と稱す。

(設問) 例文中より混文を擧げよ。

(注意) 複文に於ては、其中の別の考を其儘、優劣なく並べ表すものにして、混文に於ては、之に順序を立て、或るものを主とし、あるものを従として、説をなすものとす。

(132) **附屬文**は、語又は句と同じく、或は名詞の如く、或は形容詞の如く、或は副詞の如くに用ゐらる。

(a) 名詞の如く用ゐらるゝ時は、之を**名詞文** [Noun Clause] と云ふ。

He thought *that it was India*.

(注意) *that* 以下の副詞文は *thought* の目的部なり。

(b) 形容詞の如く用ゐらるゝ時は、之を**形容文** [Adjective Clause] と稱す。

They had never heard of the people *who lived in Europe*.

(c) 副詞の如く用ゐらるゝ時は、之を**副詞文** [Adverbial Clause] と云ふ。

The people were very much surprised, *when they saw the ships of Columbus*.

(133) *if*, *while*, *when*, *though*, *unless* 等にて始まる附屬文に於て、もし附屬文の主語と、主文の主語と同一なる時は、附屬文の主語(及び治定動詞 *to be* も)を略すことあり。

While [he was] searching for some apples, he found a book.

The wound, *though severe*, was not mortal.

If spoken to, she will make no reply.

(134) 混文を解剖するには. 先づ主文を求め. 之をば一旦. 單文の例に由りて解剖し. 然る後. 順次. 附屬文の解剖に及ぶべし.

例へば The people of the island were very much surprised, when they saw the ships of Columbus. を解剖すれば下の如し.

接續語	主 部		敘 述 部			
	主-修	主語	動詞	目的部	補足部	動-修
主 文	...	(1) the (2) of the island people	were sur- prised	(1) very much (2) when they ... Columbus
附 屬 文	when	...	they	saw	the ships of Columbus	...

復 習 表

混文=主文+附屬文

附屬文 { 名詞文
 形容文
 副詞文

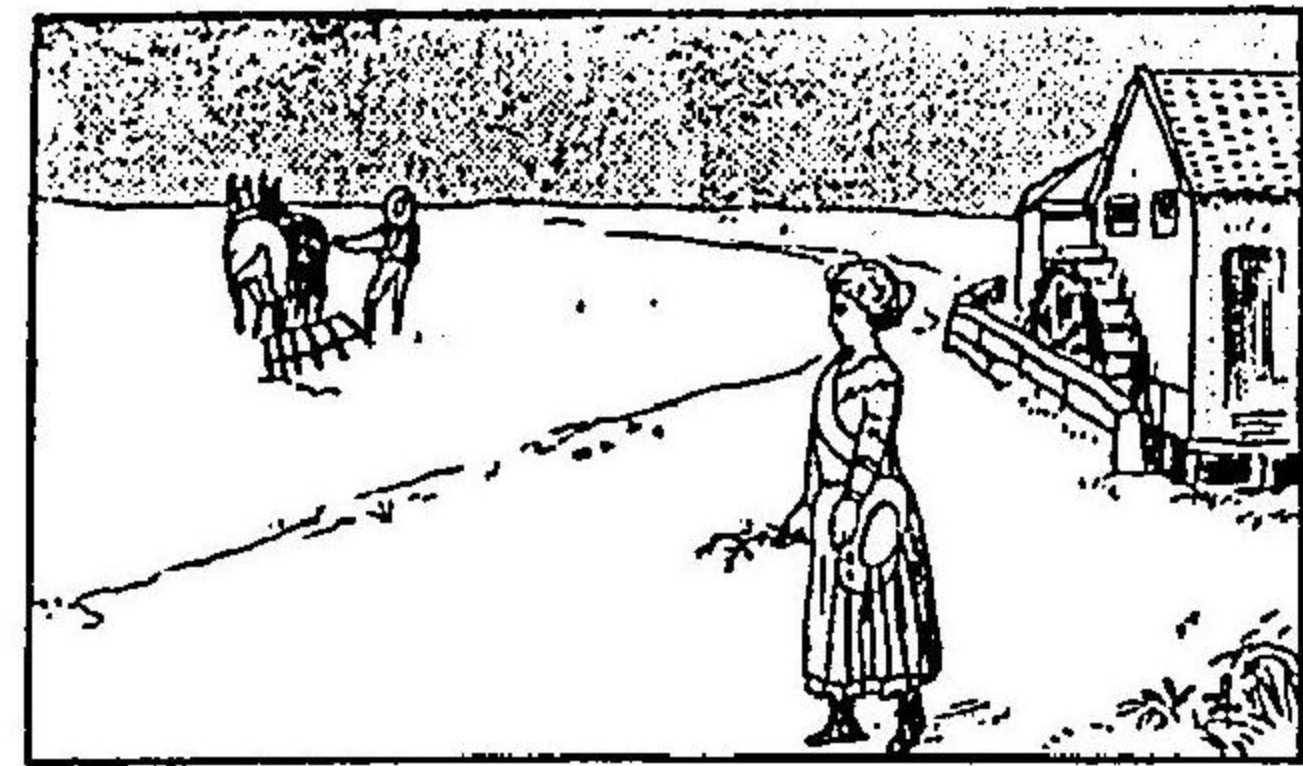
EXERCISE

I. 次の文章は混文なりや. 複文なりや. 若し混文ならば. 其附屬文の性質を述べよ.

1. When Napoleon Bonaparte invaded Italy the second time in A. D. 1800, he led his army across the cold and stormy Alps.
2. There the snow lies deep all the year round, and the roads are often blocked up by masses of ice.
3. It was May when he himself crossed the mountain by the St. Barnard Pass.

II. 本章例文 (142頁) 中より混文を挙げ. 之を解剖せよ.

XXIV. COMPLEX SENTENCES (Continued)



The young woman has been to the mill.

What is a mill?

Do you know what a mill is?

I do not know what it is.

The farmer is working with the horses.

Can you guess why he is looking up into the sky?

(135) I do not know what it is.

と云ふ混文を見るに. know の目的部は what it is と云ふ附屬文なり。而して. 此附屬文は元は疑問文にして. もし單文として顯はるゝ場合には. What

is it? と云ふ順序を採る。

凡て. 疑問文 (單文の) が. 混文中に顯はるゝ時は. 動詞の位置は. 敘述文に於けると同じく. 主語の次に來るものとす。

對照 { What is a mill?
I do not know what a mill is.

(注意) [1] 此場合には疑問代名詞. 疑問副詞とも. 文の中にあり. [110節及び114節對照]

(注意) [2] 此時は疑問文中に do を要せず。

對照 { Where did he get them?
I cannot tell where he got them.

(136) 上述の規則は. 歸する所. 動詞を主語の次に置く事を説くものなるを以て. 動詞が初より主語の次に在る時は. 更に其位置を變ずるに及ばず。

(注意) [1] 即ち疑問代名詞が. 文の主語なる

時には [111 節]. 混文中に顯はるゝ場合にも、動詞の位置は元の儘なり。

(例外) 前節の注意中に述ぶる如く、疑問代名詞、疑問副詞は、混文中に於ては、文の中にあるを通則とすれども、do you thinkと云ふ語ある時は、元の如く文の初に置くものとす。例

What do you think he did?

What do you think the picture represents?

(137) 第廿二章より本章までの説明に由り、文章を、其構造の上より分類する時は、單文、複文、混文の三種と成るを悟るべし。

而して、同一の思想を表すに、或は單文を用ゐ、或は混文を用ゐ、或は複文を用ゐることあり。例へば

單文 *Owing to bad health, he could not go to school.*

混文 *As he was in bad health, he could not go to school.*

複文 *He was in bad health, and so he could not go to school.*

單文 *On my way to school yesterday morning, I met my cousin John.*

混文 *As I was on my way to school yesterday morning, I met my cousin John.*

複文 *I was on my way to school yesterday morning, and I met my cousin John.*

(注意) 單文を、混文又は複文に變ずる法は、其文中の語又は句を關聯文に變ずるにあり、而して若し其關聯文が獨立文なる時は複文となり、附屬文なる時は混文となる。

復 習 表

文章 (構造上よりの 分類)	{	單文.....語及び句.
		複文.....獨立文の集合體.
		混文.....主文及び附屬文.

EXERCISE.

次の二文を結合して、一の混文を作れ。

1. What is that? Tell me.
2. Who will come? Do you know?
3. What has he? Can you tell?
4. Where is he going? I do not know.
5. When will he come here? Ask him.

REVIEW EXERCISE.

次の文の性質を述べ、然る後更に之を解剖せよ。

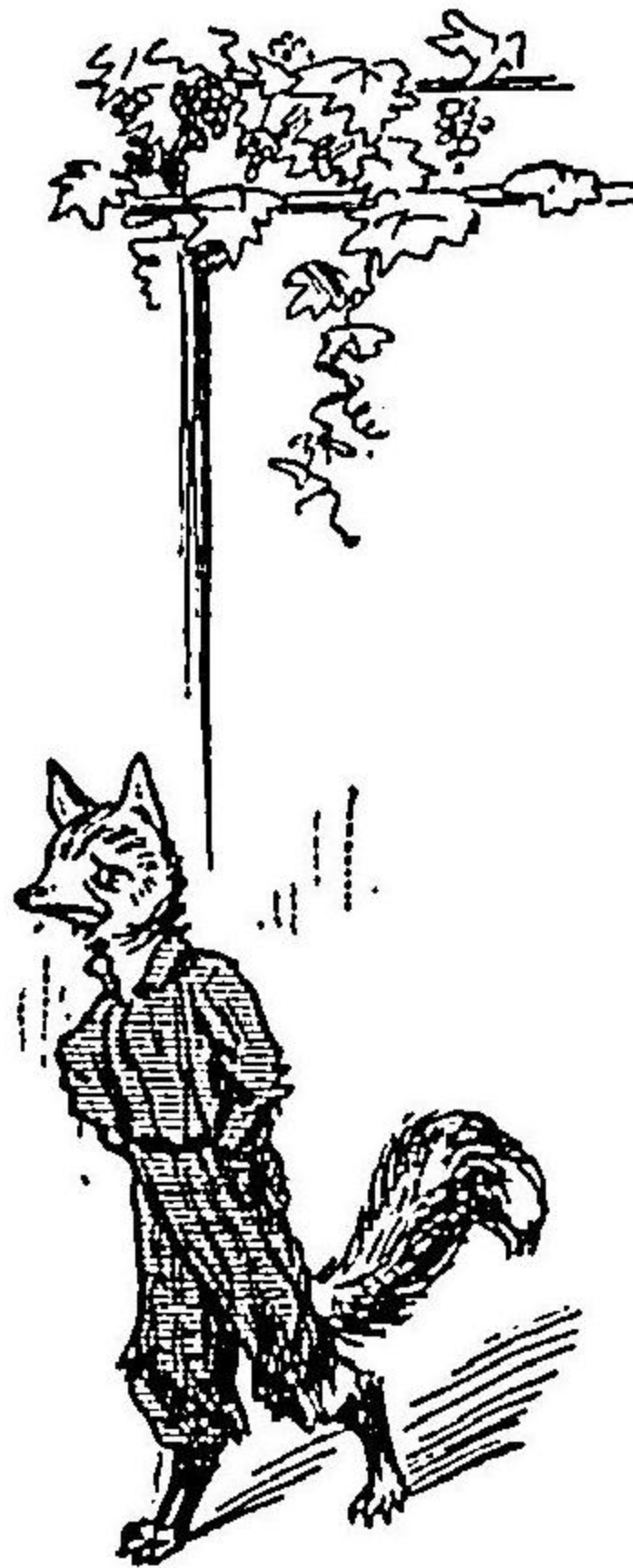
Counting Pigs.

1. A farmer, who had twenty pigs, one day sent Paddy to count them, and see if they were all there.
2. The Irish servant came back slowly, with a puzzled look on his face.
3. "Well," said his master, "are they all right?"

4. "Ah! your honour, I counted nineteen; but one little fellow ran about so fast, that I wasn't able to count him at all."

(注意) [3] の引用文の如きは say の目的部と見るべし。

XXV. CONJUNCTIONS.



This fox liked grapes, and these fine grapes were very tempting for him.

He jumped and tried to get some.

He tried many times, but failed each time.

At last he found that he could not get any of them.

"These grapes are sour," said he. "I do not care to have them."

- (138) This fox liked grapes, *and* these fine grapes were very tempting for him.
At last he found *that* he could not get any of them.

の文中、*and* 及び *that* は、共に文と文とを結合する語にして接續詞なり [127 節] 而して、*and* は二個の獨立文を結ぶに用ゐられ、*that* は主文 (At last he found) に附屬文 (he could not get any of them) を結ぶに用ゐらる。前者の如きを**併立の接續詞** [Co-ordinate Conjunction] と稱し、複文を作るに用ゐる。後者の如きを**從屬の接續詞** [Subordinate Conjunction] と稱し、混文を作るに用ゐる。

(備考) 126 節注意及び 130 節注意の項にある名稱と比較せよ。

- (139) He tried many times, but (he) failed each time.

を見るに、第一の獨立文の主語は、第二の獨立文の主語と同様なるを以て、第二の主語を略せり。併立の接續詞を用ゐる時、往々斯く語句の省略を行ふことあり。[129 節参照]

(140) 之まで學びたる所に由り、語には、名詞、代名詞、形容詞、動詞、副詞、前置詞、接續詞、及び間投詞の八種類あることを知るべし。之を**八品詞** [Eight Parts of Speech] と稱す。凡そ如何なる語も、文章中に於ける用法に由り、八品詞の中必ず其一に屬するものとす。

復 習 表

接續詞 { 併立接續詞
從屬接續詞

八品詞...名。代。形。動。副。前。接。間。

EXERCISE.

I. 適當なる接續詞を挿入せよ。

1. Columbus believed — the world is round, — few people did so at that time.
2. He was not aware — there was the Continent of America.
3. He thought — — he sailed on — on, always keeping to the west, he would at last come to India.
4. Look at the map of the world, — you will see —, — there had been no America, he would have been right.

II. 次の心を英語にて述べよ。

1. John と James とは同じ學校へ行く。
2. John は能い子供であるから常に先生に賞められる。
3. James は John 程に勉強家でない。
4. James は先生が何か尋ねると大抵知りませんと答へる。
5. 僕は James よりも John の方が好きだ。

XXVI. RELATIVE PRONOUNS AND ADVERBS



Some boys who were playing near a pond threw stones into the water for fun. There lived many frogs in this pond and one frog after another was hit by the stones which the boys threw.

At last an old frog put his head up out of the pond and said, "Please stop, boys, the stones that you throw hurt us.

What is play to you is death to us."

Do you see the pond where the frogs used to live?

Can you tell me the reason why an old frog spoke, instead of a young one?

(141) One frog after another was hit by the stones *which* the boys threw.

と云ふ混文を見るに、*which* といふ語は、其前にある名詞 *stones* を代表すると同時に、*One frog after another was hit by the stones* といふ部分と、*which the boys threw* といふ部分とを結び合す。斯くの如く、代名詞の性質を有すると共に、接續詞の如き働きをなす語を、**関係代名詞 [Relative Pronoun]** と稱す。

(備考) 関係代名詞は、かく代名詞、接續詞の結合なるを以て、往々接續代名詞 [Conjunctive Pronoun] と稱せらる。

関係代名詞の前にありて、之に代表せらるゝ名詞(又は代名詞)を**先行詞 [Antecedent]** と云ふ。例へば前文中の

stones は、*which* の先行詞なり。

(設問) 例文中より更に一の関係代名詞と其先行詞とを採りて其説明を試みよ。

(142) **関係代名詞**には次の種類あり。

主 格	所有格	目的格
who	whose	whom
which	of which (whose)	which
what	what
that	that

(143) Some boys *who* were playing near a pond threw stones into the water for fun.

にて見る如く、**who** は人にのみ用ゐる格によりて其形を異にす。

The tall gentleman *who* came here yesterday is my uncle.

The lady *whom* you saw yesterday is my aunt.

The Englishman *whose* photograph I showed you the other day will be here to-day.

(144) One frog after another was hit by the stones *which* the boys threw.

にて見る如く、**which** は物に用ゐる。人に用ゐるべからず。また其所有格には多く **of which** を用ゐる。

I should prefer a book *which* is both interesting and instructive.

The book *which* I bought yesterday is very amusing.

A certain man owned a horse, the fame *of which* was spread far and near.

(注意) *of which* の代りに *whose* を用ゐるは、極めて稀なり。

There is a mountain in my province *whose* top is always covered with snow.

(145) **who** と **which** には、次の二用法あり。

(a) 限定的

He is the gentleman *who* lent me the book.

This is the book *which* I bought yesterday.

(b) 添加的

I met Mr. Baker, *who* (=and he) lent me a book.

I bought a book yesterday, *which* I mean to lend to you.

(a) に於ては、*who* lent me the book は gentleman を修飾する形容文なり。されば、gentleman は誰にても宜しと云ふには非ずして、「余に本を貸したる」紳士に限りて云へるものなり。故に此用法を**限定的用法 [Restrictive Use]**と稱す。

(注意) 此場合には通常 *who* の前に comma なく、全文は一の混文を成せり。

(b) に在りては、*who* lent me a book. は形の上に於ては Mr. Baker を修飾するに似たれども、意味の上に於ては I met Mr. Baker. と必然の關聯あるに非

ず。唯 who を用ゐて第二の獨立文を添加したるに過ぎざるなり。此場合の who は之を and he に改むることを得。故に此用法を**添加的用法** [Continuative Use] といふ。

(注意) 此時は who の前に comma を置く。且つ who にて接續せる二文は、事實上各々の獨立文なるを以て、全文は之を一種の複文とも見做すべきなり。

(備考) 此用法に又併立的用法 [Co-ordinating Use] の稱あり。

(設問) which に就きても同様の説明を試むべし。

(146) The stones *that* you throw hurt us.

that は人にも亦は物にも用ゐる。

(注意) 但し斯く用ゐる **that** は常に限定的の用法にのみ限るものとす。

This is the boy, *that* whipped the dog, *that* ran after the cat, *that* killed the rat, *that* ate the bread, *that* lay in the house, *that* Jack built.

(設問) 上の文中 **that** の先行詞をあげ、人なるか、又は物なるかを見よ。

(147) **whom, which** の前には前置詞を置くを得れども、**that** の前には前置詞を置くを許さず。

The traveller, *with whom* I went to Berlin, was an Italian.

The wolf *at which* the hunter fired was wounded.

The house *that* I live *in* is large enough for me.

對照 { The house *in which* I live.
The house *which* I live *in*.
The house *that* I live *in*.

(148) *What* is play to you is death to us.

にて見る如く、**what** は、他の關係代名詞と異り、先行詞を其中に含めり。即ち **what=that** (先行詞)+**which** (關係代名詞) なり。

“What is one man’s meat is another man’s poison.”

He told his friends *what* he had seen.

(149) Do you see the pond *where* the frogs used to live?

と云ふ混文を見るに. *where* は副詞にして used to live を修飾すると共に. 又 Do you see the pond と云ふ部分と. *where* the frogs used to live と云ふ部分とを結合す. かかる副詞を **関係副詞 [Relative Adverb]** と云ふ.

(注意) [1] 関係副詞は. 斯く. 副詞と接續詞との結合なるを以て. 之を接續副詞 [Conjunctive Adverb] と云ふことあり.

而して. pond の如きを. 関係副詞の先行詞 [Antecedent] と稱す.

(注意) [2] 主なる関係副詞は *where, when, why* 等なり.

復 習 表

関係代名詞 { 種類.....*who, which, that, what*
用法...限定的及び添加的

関係副詞.....*where, when, why*

EXERCISE.

I. 適當なる関係代名詞又は関係副詞を入れよ.

1. In 1492, Columbus set sail from Spain on the great voyage — ended in the discovery of America.
2. He sailed into — was then an unknown sea.
3. The men — were with him became alarmed.
4. — he found the land, he called it India.
5. This is the reason — the islands came to be known as the West Indies.

II. 次の二文を関係代名詞を用ゐて結合し. 一の混文とせよ.

1. Here comes a little boy. His name is Henry.

2. His sister is sitting in a chair. She lost her purse.
3. The purse was picked up by a poor boy. The purse was made of leather.

III. 次の語を關係代名詞を用ゐて説明せよ。

MODEL. A *baker* is a man who bakes bread.

1. Widow 2. orphan 3. shoe-maker.

REVIEW EXERCISE.

(時間の都合によりては之を略すとも可なり)

第廿四章 Review Exercise [152 頁] の個々の語を取り、其何品詞に屬するかを述べよ。かゝる單語の品詞分類を品詞の類別 (Parsing) と云ふ。

MODEL

a 冠詞. farmer 名詞. who 關係代名詞。

INDEX.

(The references are to the paragraphs)

n=note

- | | |
|---|-------------------------------------|
| a 36 39 | can 83 100 100 n(2) 104 |
| Accent 86 (c) | Capital Letter 1 n. |
| Accusative 63 n | Case 26 29 |
| Adjectival Modifier 74 n (1) | Case of Noun 29-34 |
| Adjectival Use of Interrogative Pronoun 113 | Classes of Verb 66-68 |
| Adjective 35 73 | Clause 126 130 |
| Adjective Clause 132 | Common Gender 26 |
| Adjective+ly 59 | Common Noun 15 |
| Adjective Phrase 70 | Comparative Degree 52 (2) 57 |
| Adverb 58-62 73 | Comparison 52-57 60 |
| Adverbial Adjunct 74 n (1) | Complement 42 45 66 72 7 n. |
| Adverbial Clause 132 | Complement Word 42 43 |
| Adverbial Modifier 74 n (1) | Complete Intransitive Verb 41 66 74 |
| Adverbial Phrase 62 63 70 83 | Complete Transitive Verb 46 66 76 |
| Affirmative Sentence 3 n (1) | Complete Verb 68 |
| Analysis of Sentence 71 | Complex Sentence 2 131-137 |
| Antecedent 141. 149 | Compound Sentence 126 128 129 137 |
| Apostrophe 32 | Conjugation 84 |
| Article 37 73 n (3) | Conjunction 127 138-139 |
| Assertive Sentence 3-7 | Conjunctive Adverb 149 n (1) |
| Attributive Adjunct 74 n (1) | Conjunctive Pronoun 141 n |
| Attributive Use 51 | Connective 128 n (1) |
| Auxiliary Verb 69. | Consonant 17 |
| | Consonant Sound 38 |
| | Continuative Use 145 |
| bad 55 n (2) | Co-ordinate Clause 126 n |
| be 81 99 103 133 | |
| be+going 98 n (1) | |
| bring 63 | |

Co-ordinate Conjunction 138
 Co-ordinating Use 144 n

Dative Object 63 n.
 Definite Article 37 40
 Degrees of Comparison 52-57
 Dependent Clause 130 132 133
 Diagram 79
 Direct Object 63 n
 do 101 105 111 121 135 n (2)

elder 55 n (3)
 eldest 55 n (3)
 -es 82
 evil 55 n (2)
 Exclamation Mark 5 n.
 Exclamatory Sentence 5 116 117
 124

farther 55 n (6)
 farthest 55 n (6)
 Feminine Gender 26
 Finite Verb 80-82
 First Person 24
 further 55 n (6)
 furthest 55 n (6)
 Future Progressive 97
 Future Tense 90

Gender 26
 give 63
 going 98 n (1)

hard 59 n
 hardly 59 n
 have 99 103
 Historic Present 88 n (2)
 how 107 115 117

if 133
 ill 55 n (2)
 Immediate Future 98
 Imperative Mood 120 n
 Imperative Sentence 6 119-124
 Incomplete Intransitive Verb 41
 66 75
 Incomplete Transitive Verb 46 66
 77
 Incomplete Verb 68
 Indefinite Article 37 39
 Independent Clause 126
 Independent Element 78
 Indirect Object 63 n
 Infinitive 84 n
 Inflection 107 n
 Interjection 118
 Interrogative Adverb 114-115
 Interrogation Mark 4 n
 Interrogative Pronoun 108-113
 108 136
 Interrogative Sentence 4 103-113
 124 135
 Intransitive Verb 18 67
 Irregular Verb 85 87

last 55 n (4)
 late 55 n (4) 59 n
 lately 59 n
 later 65 n (4)
 latter 55 n (4)
 lend 63
 let 122
 Letter 1 n
 little 55 n (2)

Masculine Gender 26

may 83 100 n (2) 104 n (2)
 Modifier 73
 Modulation 103 n
 more 54
 most 54
 must 83 100 n (2) 104 n (2)

nearest 55 n (5)
 Negative Sentence 3 n (7) 99-102
 Neuter Gender 26
 never 102
 next 55 n (5)
 no 102
 Nominative Case 25 29
 Nominative of Address 119 n
 Noun 12 14-17
 Noun Clause 132
 Noun Phrase 70
 Number 16-17.

Object 20-22 45 66 72
 Object of Preposition 30
 Object Word 20
 Objective Case 25 29
 "of" before Possessive Case 34
 of which 142 144
 older 55 n (3)
 oldest 55 n (3)
 Order of Words 11 22 44 48 61
 64 65 103 110 111 114 116 135
 136.

Past 84
 Past Participle 84
 Past Progressive 27
 Past Tense 89
 Part of Speech 140

Period 3 n (1)
 Person 24 27 n (3)
 Personal Pronoun 23-28
 Phrase 70 74 n (3)
 Plural Number 16 17
 Positive Degree 52 (1)
 Possessive Case 25 29 32-34
 Predicate 9-10-11 72
 Predicate Modifier 74 n (1) 74 n (4)
 Predicate Verb 13 69 72 80
 Predicative Use 51
 Preposition 30 110 n.
 Present Tense 84 88 96
 Principal Element 72 n
 Principal Verb 69
 Progressive Form 95-97
 Pronoun 12 23
 Proper Noun 14.

Regular Verb 85 86
 Relative Adverb 149
 Relative Pronoun 141
 Restrictive Use 145

-s 82
 Second Person 24
 send 63
 Sentence 2-8
 shall 83 90 92 93 100 n (2) 104 n
 (2)
 show 63
 Simple Sentence 125 137
 Singular Number 16 17
 small 55 n (2)
 Small Letter 1 n
 Subject 9-11 72
 Subject-Modifier 74 n (1)

- Subject Word 9.
 Subordinate Clause 130
 Subordinate Conjunction 138
 Subordinate Element 73 n (2)
 Superlative Degree 52 (3) 56
 Syllable 53
- teach 63
 tell 63
 Tense 88-94
 that 142 146
 the 36 37 40
 think 136 n (2)
 Third Person 24
 Third Person Singular 82
 though 133
 Three Indefinite Tenses 94 n.
 Three Primary Tenses 94 n.
 Three Principal Parts 84
 Transitive Verb 19 67.
 unless 133
- Verb 13 66-68
 Verbs of Giving, Telling, etc. 63-65 73 n (3)
 Vowel 17
 Vowel Sound 38
- well 55 n (1)
 what 107 108 109 113 116 n (2) 117 142 148
 when 133 149
 where 149
 which 108 109 112 113 142 144 145 147
 while 133
 who 108 109 112 142 143 145
 whom 109 142 143 147
 whose 109 142 143 144
 why 149
 will 83 90 91 93 100 n (2) 104 n (2)
 Word 1

英文典

明治四十四年十月七日印刷
 明治四十四年十月十日發行



定價

上卷 金四拾錢
 下卷 金參拾八錢

著者

東京市小石川區雜司谷町三十七番地

岡倉由三郎

發行兼印刷者

東京市京橋區銀座壹丁目貳拾貳番地

大日本圖書株式會社

代表者 專務取締役 宮川保全

發賣所

東京市京橋區銀座壹丁目貳拾貳番地

大日本圖書株式會社

振替貯金口座 東京二一九番

印刷所 株式會社東京築地活版製造所

THE GLOBE SERIES
OF
ENGLISH TEXT-BOOKS

For Middle-Grade Schools

Edited by Prof. Y. OKAKURA

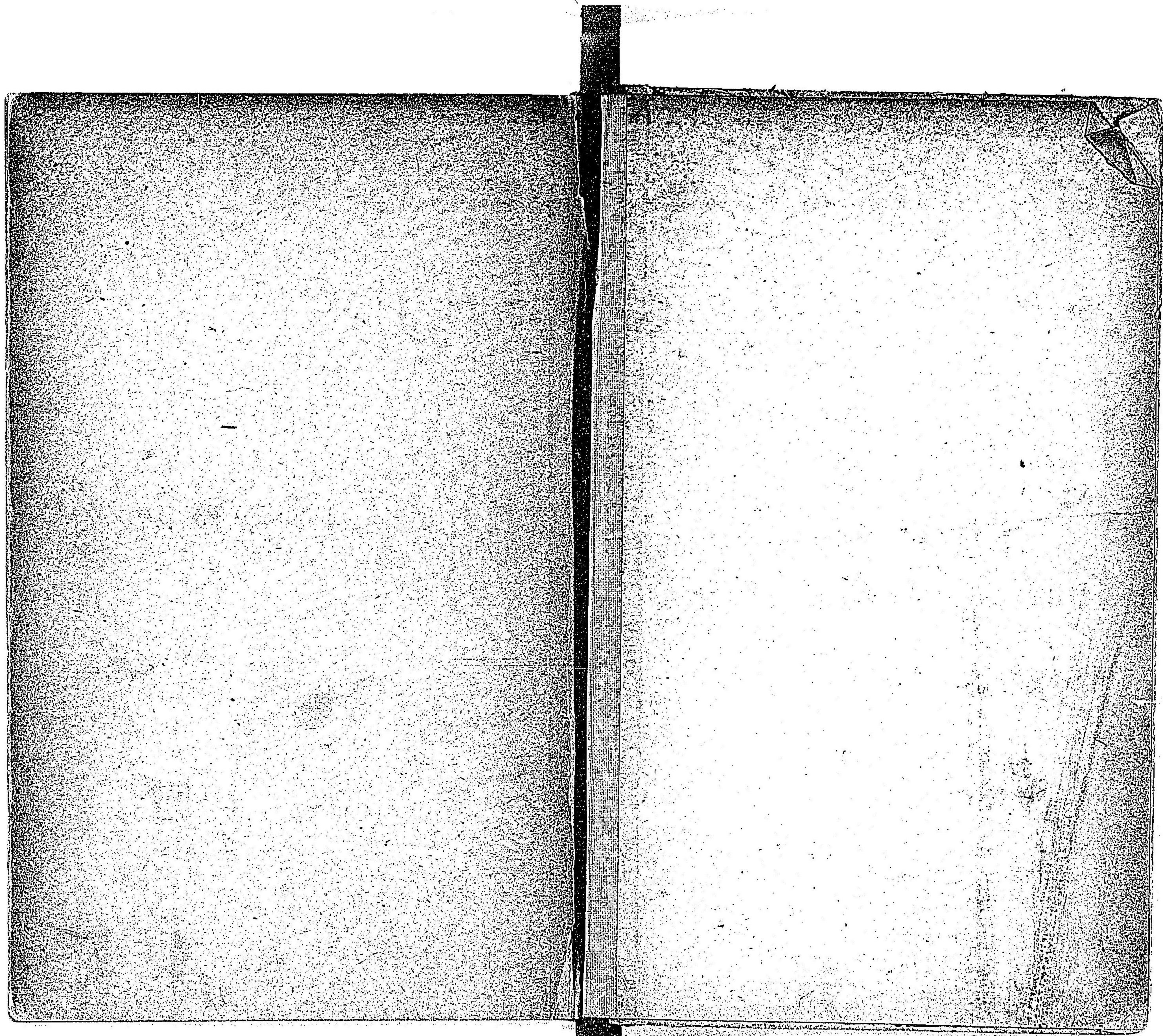
By Prof. Y. Okakura.

1. The New Globe Readers 5 vols.
2. Outlines of English Grammar . . . 1 vol.
3. The "Wistaria" Writing Books . 6 vols.
4. The Globe Readers. 5 vols.
5. The Globe Home Readers 5 vols.
6. Girls' Globe Readers 4 vols.
7. The Globe Grammar 1 vol.

By Prof. W. Rippmann.

1. Picture Vocabulary. 2 vols.
For the Learners of English
2. Free Composition in English . . . 1 vol.
A Companion to "Picture Vocabulary."

大日本圖書株式會社發行



181

296

204802-001-6

181-296 (洋)

英文典

岡倉 由三郎 / 著

上

M44

EDU-0066

